

令和4年度
ユニットロード貨物流動調査
調査概要

国土交通省港湾局

目 次

1. 調査の目的	1
2. 調査の沿革	1
3. 調査の根拠法令	1
4. 調査の対象	1
5. 抽出方法及び調査内容	2
6. 調査票	2
7. 調査の時期	2
8. 調査の方法	3
9. 結果の概要	3
10. 集計結果	4
(1) 内航コンテナ船・RORO船の貨物流動実態	4
(2) 内航自動車航送船（フェリー）の貨物流動実態	15
(3) 外航RORO船・自動車航送船（フェリー）の貨物流動実態	19
(4) 過去の調査との比較分析	26
（参考1）調査票	30
（参考2）月間値の推計手法	35
（参考3）品類・品目分類表	38

1. 調査の目的

本調査は、「内航コンテナ船・内航RORO船・内航自動車航送船」及び「外航RORO船・外航自動車航送船」の貨物流動の量的・質的な動向を把握するため、統計法に基づく一般統計調査として実施するものである。

また、ユニットロード貨物流動調査の実施・集計を行うとともに、ユニットロード貨物の海陸一貫の流動実態を踏まえ、各種政策に反映するため、調査結果をもとに内貿及び輸出入における品目毎のユニットロード貨物の動向解析、2次統計の整備等を行うことを目的とする。

2. 調査の沿革

本調査は、「内貿ユニットロード貨物流動調査」として昭和60年度、平成元年度、5年度、12年度に実施しており、平成19年度以降は、5年周期で実施。平成24年度より、外貿ユニットロード貨物流動調査が新たに追加され、調査の名称を「内外貿ユニットロード貨物流動調査」に変更し、令和4年度では「ユニットロード貨物流動調査」の名称で実施している。

3. 調査の根拠法令

統計法第19条第1項に基づく一般統計調査として実施

4. 調査の対象

ア. 内貿ユニットロード貨物流動調査

① 内航コンテナ船・RORO船貨物流動調査

不特定荷主を集荷対象とした内航コンテナ船・RORO船による内航定期航路を運航する船舶運航事業者

② 内航自動車航送船利用動向調査

不特定荷主を集荷対象とした内航定期航路を運航する自動車航送船に乗船した車両（貨物運搬車両に限る。）のドライバー。対象航路は、発港、着港の双方が本州、北海道、四国、九州、沖縄本島（いずれも離島を除く）に所在する航路（発港、着港が同一県内の航路など一部の航路を除く）

イ. 外貿ユニットロード貨物流動調査

③ 外航RORO船・自動車航送船貨物流動調査

不特定荷主を集荷対象とした外航RORO船・自動車航送船による外航定期航路を運航する船舶運航事業者。対象航路は、日本と対岸諸国（中国、韓国、台湾、極東ロシア）を結ぶ航路

（船舶運航事業者が貨物の陸上流動に関する情報を有していない場合は、二次調査先として記入された海運貨物取扱業者（フォワーダー））

5. 抽出方法及び調査内容

調査名	調査対象者	調査内容・調査期間
貨物流動調査（政府統計）		
①内航コンテナ船・RORO船貨物流動調査	内航コンテナ船・RORO船の運航事業者	・令和4年11月1ヶ月間の任意の4航海を対象として、調査対象貨物の輸送形態、貨物の出発地から到着地までの輸送の流れ（内陸輸送を含む）、貨物の内容等を把握する。
②内航自動車航送船利用動向調査	内航自動車航送船（離島航路を除く）を利用する調査対象車両の運転手	・令和4年11月1ヶ月間の任意の2日間を対象として、調査対象車両の特性、積載している貨物の出発地から到着地までの流動、貨物の内容等を把握する。
③外航RORO船・自動車航送船貨物流動調査	外航RORO船・自動車航送船の運航事業者	・令和4年11月1ヶ月間の任意の4航海を対象として、調査対象貨物の輸送形態、貨物の出発地から到着地までの輸送の流れ（国内の内陸輸送を含む）、貨物の内容等を把握する。
2次調査	外航RORO船・自動車航送船を利用するフォワーダー（貨物利用運送事業者）等	・外航RORO船・自動車航送船の運航事業者が把握していない調査項目について、フォワーダー等に対する補足調査により把握する。

6. 調査票

巻末参考資料のとおり。

7. 調査の時期

ア. 内貿ユニットロード貨物流動調査

① 内航コンテナ船・RORO船貨物流動調査

令和4年11月1日から11月30日までの1ヶ月間のうちの任意の4航海

② 内航自動車航送船利用動向調査

令和4年11月1日から11月30日までの1ヶ月間のうちの任意の2日間

イ. 外貿ユニットロード貨物流動調査

③ 外航RORO船・自動車航送船貨物流動調査

令和4年11月1日から11月30日までの1ヶ月間のうちの任意の4航海

8. 調査の方法

ア 内貿ユニットロード貨物流動調査

① 内航コンテナ船・RORO船貨物流動調査

船舶運航事業者に調査票を配布、記入いただいて回収

② 内航自動車航送船利用動向調査

自動車航送船運航事業者経由で自動車航送船に乗船したドライバーに調査票を配布、記入いただいて回収

また、専用の回答アプリを作成し、スマートフォンによるWeb回答にも対応

イ 外貿ユニットロード貨物流動調査

③ 外航RORO船・自動車航送船貨物流動調査

船舶運航事業者に調査票を配布、記入いただいて回収

2次調査については、海運貨物取扱業者（フォワーダー）に調査票を配布、記入いただいて回収

9. 結果の概要

今回調査の調査別回収結果は、以下に示すとおりである。

表－1 調査別の回収結果

		調査対象者数	回収数	回収率
内航コンテナ船・RORO船貨物流動調査		27	25	92.6%
内航自動車航送船利用動向調査		12,256	10,972	89.5%
外航RORO船・自動車航送船貨物流動調査	1次調査	6	6	100%
	2次調査	61	43	70.5%

注) 以下、「10. 集計結果」に示すデータは、令和4年11月に実施した調査結果から、11月の1か月分の数値に拡大推計したものである。

10. 集計結果

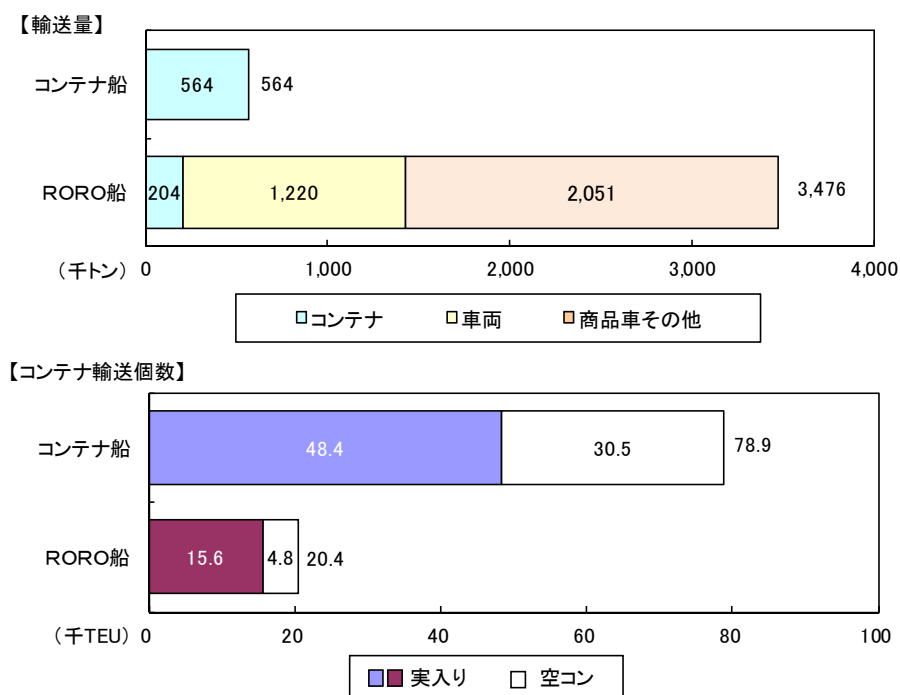
(1) 内航コンテナ船・RORO船の貨物流動実態

1) 船種別貨物輸送量，コンテナ輸送個数

令和4年11月1ヶ月間の内航コンテナ船とRORO船による貨物輸送量は4,040千トンである。うち、コンテナ船の輸送量は全体の14.0%、RORO船の輸送量は86.0%である。また、輸送機器別では、商品車(中古車を含む)が全体の50.8%を占め、以下、トレーラ等の車両による輸送貨物(30.2%)、コンテナ貨物(19.0%)、の順に輸送量が多い。

コンテナ船とRORO船による月間コンテナ輸送個数は、99.3千TEUである。このうち、実入りコンテナは64.0千TEU、空コンテナは35.3千TEUであり、全体の64.4%が実入りコンテナである。船種別にみると、コンテナ船による輸送が79.4%を占める。

RORO船による月間車両輸送台数は340千台であり、内訳をみると商品車が258千台、トレーラは79千台(うち実車69千台、空車10千台)で、トラックはわずかに2.0千台である。



図－1 内航コンテナ船・RORO船の船種別貨物輸送量・コンテナ輸送個数

表－２ 内航コンテナ船・RORO船における貨物・コンテナ・車両の輸送量

輸送量			コンテナ船		RORO船		合計	
			トン	構成比	トン	構成比	トン	構成比
月間輸送トン数	コンテナ	直積み	564,319	100.0%	66,856	1.9%	631,175	15.6%
		オンシャーシ			137,409	4.0%	137,409	3.4%
		計	564,319	100.0%	204,265	5.9%	768,584	19.0%
	車両	トラック			15,692	0.5%	15,692	0.4%
		トレーラ			1,204,576	34.7%	1,204,576	29.8%
		計			1,220,268	35.1%	1,220,268	30.2%
	その他	商品車			2,028,969	58.4%	2,028,969	50.2%
		重機・建機			16,432	0.5%	16,432	0.4%
		パレット貨物直積み						
		その他			5,684	0.2%	5,684	0.1%
	計				2,051,085	59.0%	2,051,085	50.8%
	合計			564,319	100.0%	3,475,618	100.0%	4,039,937
(船種構成比)			-	14.0%	-	86.0%	-	100.0%

コンテナ個数			コンテナ船		RORO船		合計		
			個数	構成比	個数	構成比	個数	構成比	
輸送個数	直積み	実入り	29,353	60.8%	5,950	24.3%	35,303	48.5%	
		空コン	18,901	39.2%	2,450	10.0%	21,352	29.3%	
		計	48,255	100.0%	8,400	34.2%	56,654	77.8%	
	オンシャーシ	実入り			13,233	53.9%	13,233	18.2%	
		空コン			2,897	11.8%	2,897	4.0%	
		計			16,130	65.8%	16,130	22.2%	
	合計	実入り	29,353	60.8%	19,183	78.2%	48,536	66.7%	
		空コン	18,901	39.2%	5,347	21.8%	24,249	33.3%	
		計	48,255	100.0%	24,530	100.0%	72,785	100.0%	
		(船種構成比)	-	66.3%	-	33.7%	-	100.0%	
	TEU換算個数	直積み	実入り	48,370	61.3%	4,896	24.0%	53,266	53.7%
			空コン	30,507	38.7%	2,440	12.0%	32,947	33.2%
計			78,877	100.0%	7,337	36.0%	86,214	86.8%	
オンシャーシ		実入り			10,709	52.5%	10,709	10.8%	
		空コン			2,360	11.6%	2,360	2.4%	
		計			13,069	64.0%	13,069	13.2%	
合計		実入り	48,370	61.3%	15,605	76.5%	63,975	64.4%	
		空コン	30,507	38.7%	4,801	23.5%	35,307	35.6%	
		計	78,877	100.0%	20,406	100.0%	99,283	100.0%	
		(船種構成比)	-	79.4%	-	20.6%	-	100.0%	

車両台数			コンテナ船		RORO船		合計	
			台数	構成比	台数	構成比	台数	構成比
輸送台数	トラック	実車		-	1,831	0.5%	1,831	0.5%
		空車		-	197	0.1%	197	0.1%
		計		-	2,028	0.6%	2,028	0.6%
	トレーラ	実車		-	69,078	20.3%	69,078	20.3%
		空車		-	9,597	2.8%	9,597	2.8%
		計		-	78,674	23.1%	78,674	23.1%
	車両計	実車		-	70,909	20.9%	70,909	20.9%
		空車		-	9,794	2.9%	9,794	2.9%
		計		-	80,702	23.7%	80,702	23.7%
	商品車			-	257,546	75.8%	257,546	75.8%
	重機・建機			-	1,743	0.5%	1,743	0.5%
	合計			-	339,991	100.0%	339,991	100.0%
(船種構成比)			-	0.0%	-	100.0%	-	100.0%

2) 港湾別輸送量

港湾別にみると、輸送量が最も多いのは名古屋港の1,255千トンであり、以下、苫小牧港(787千トン)、仙台塩釜港(671千トン)、東京港(648千トン)、横浜港(402千トン)の順となっている。

船種別にみると、コンテナ船の輸送量が最も多いのは、神戸港の266千トンである。以下、横浜港(152千トン)、東京港(95千トン)、仙台塩釜港(79千トン)、博多港(66千トン)の順であり、これら上位5港で全体の58.3%を占めている。

RORO船貨物では、名古屋港が1,236千トンで最も多く、以下、苫小牧港(744千トン)、仙台塩釜港(592千トン)、東京港(554千トン)、北九州港(356千トン)の順であり、これら上位5港の占める割合は50.1%である。

表-3 内航コンテナ船・RORO船貨物の港湾別輸送量

港湾	コンテナ船		RORO船		合計	
	輸送量	構成比	輸送量	構成比	輸送量	構成比
名古屋港	19,552	1.7%	1,235,946	17.8%	1,255,498	15.5%
苫小牧港	43,108	3.8%	744,273	10.7%	787,381	9.7%
仙台塩釜港	79,161	7.0%	591,756	8.5%	670,917	8.3%
東京港	94,586	8.4%	553,883	8.0%	648,469	8.0%
横浜港	151,707	13.4%	250,179	3.6%	401,886	5.0%
北九州港	37,620	3.3%	355,516	5.1%	393,135	4.9%
千葉港	19,405	1.7%	348,521	5.0%	367,926	4.6%
神戸港	266,154	23.6%	85,050	1.2%	351,204	4.3%
茨城港	9,513	0.8%	312,815	4.5%	322,327	4.0%
那覇港	32,879	2.9%	279,511	4.0%	312,389	3.9%
博多港	66,275	5.9%	169,540	2.4%	235,815	2.9%
三河港	1,603	0.1%	221,039	3.2%	222,642	2.8%
中津港			190,538	2.7%	190,538	2.4%
大阪港	11,044	1.0%	175,033	2.5%	186,077	2.3%
釧路港			176,330	2.5%	176,330	2.2%
水島港	20,333	1.8%	130,348	1.9%	150,681	1.9%
敦賀港	5,892	0.5%	117,279	1.7%	123,171	1.5%
川崎港	2,101	0.2%	118,298	1.7%	120,399	1.5%
荻田港			112,419	1.6%	112,419	1.4%
堺泉北港	1,683	0.1%	98,946	1.4%	100,629	1.2%
清水港	47,252	4.2%	52,626	0.8%	99,878	1.2%
横須賀港			99,343	1.4%	99,343	1.2%
広島港	29,269	2.6%	66,513	1.0%	95,782	1.2%
三島川之江港	14,248	1.3%	76,093	1.1%	90,341	1.1%
八戸港	10,243	0.9%	57,133	0.8%	67,377	0.8%
大分港	11,354	1.0%	51,066	0.7%	62,420	0.8%
尼崎西宮芦屋港			47,205	0.7%	47,205	0.6%
志布志港	16,229	1.4%	30,236	0.4%	46,465	0.6%
鹿児島港			41,976	0.6%	41,976	0.5%
宇野港			34,688	0.5%	34,688	0.4%
その他港	137,426	12.2%	127,141	1.8%	264,567	3.3%
合計	1,128,638	100.0%	6,951,236	100.0%	8,079,874	100.0%

注)輸送量の多い上位30港

順位	港湾	コンテナ船		RORO船		合計	
		トン	%	トン	%	トン	%
1	名古屋港	19,552	2%	1,235,946	18%	1,255,498	16%
2	苫小牧港	43,108	4%	744,273	11%	787,381	10%
3	仙台塩釜港	79,161	7%	591,756	9%	670,917	8%
4	東京港	94,586	8%	553,883	8%	648,469	8%
5	横浜港	151,707	13%	250,179	4%	401,886	5%
6	北九州港	37,620	3%	355,516	5%	393,135	5%
7	千葉港	19,405	2%	348,521	5%	367,926	5%
8	神戸港	266,154	24%	85,050	1%	351,204	4%
9	茨城港	9,513	1%	312,815	5%	322,327	4%
10	那覇港	32,879	3%	279,511	4%	312,389	4%
	その他	374,952	33%	2,193,787	32%	2,568,740	32%
	総計	1,128,638	100%	6,951,236	100%	8,079,874	100%

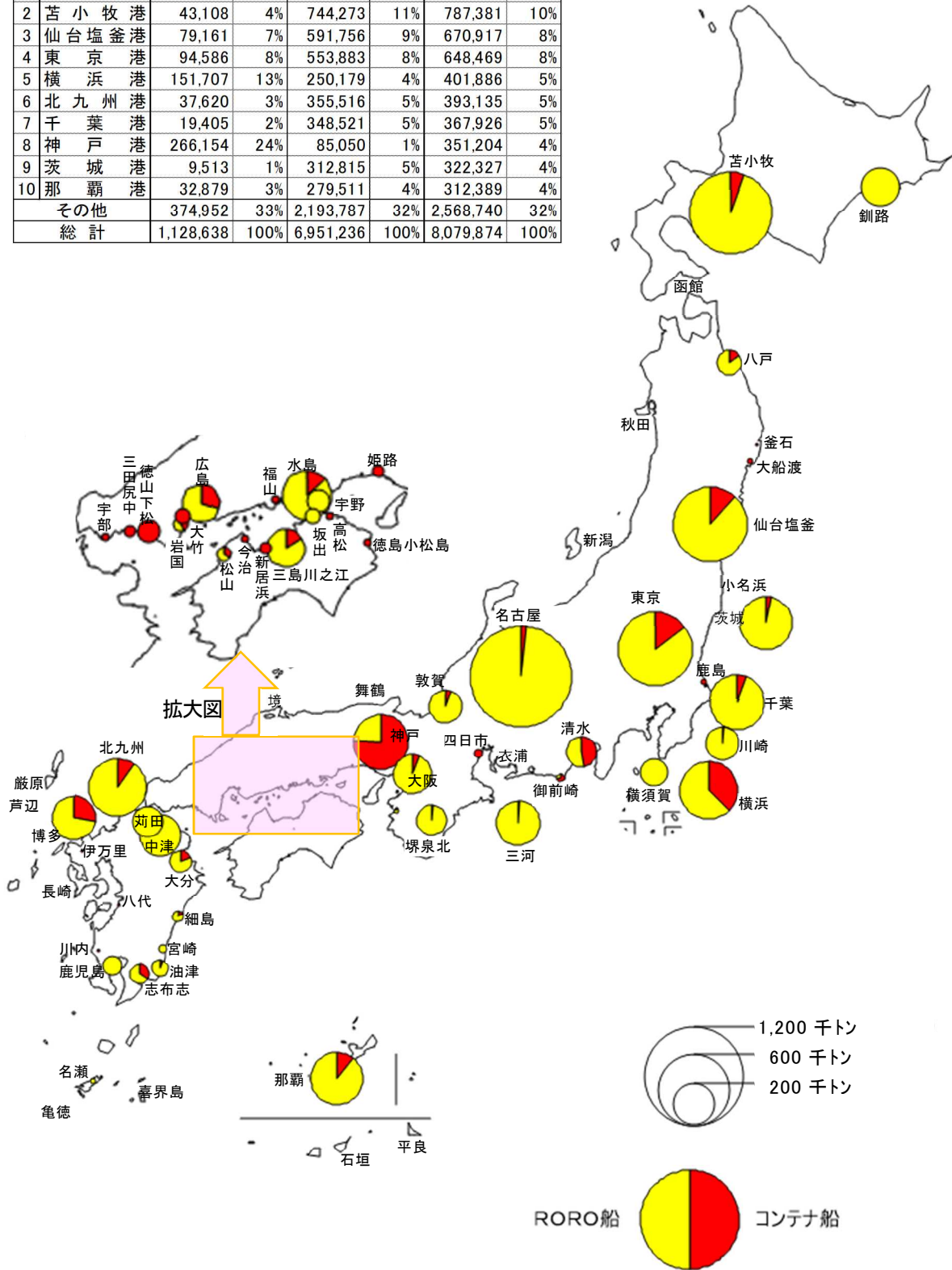
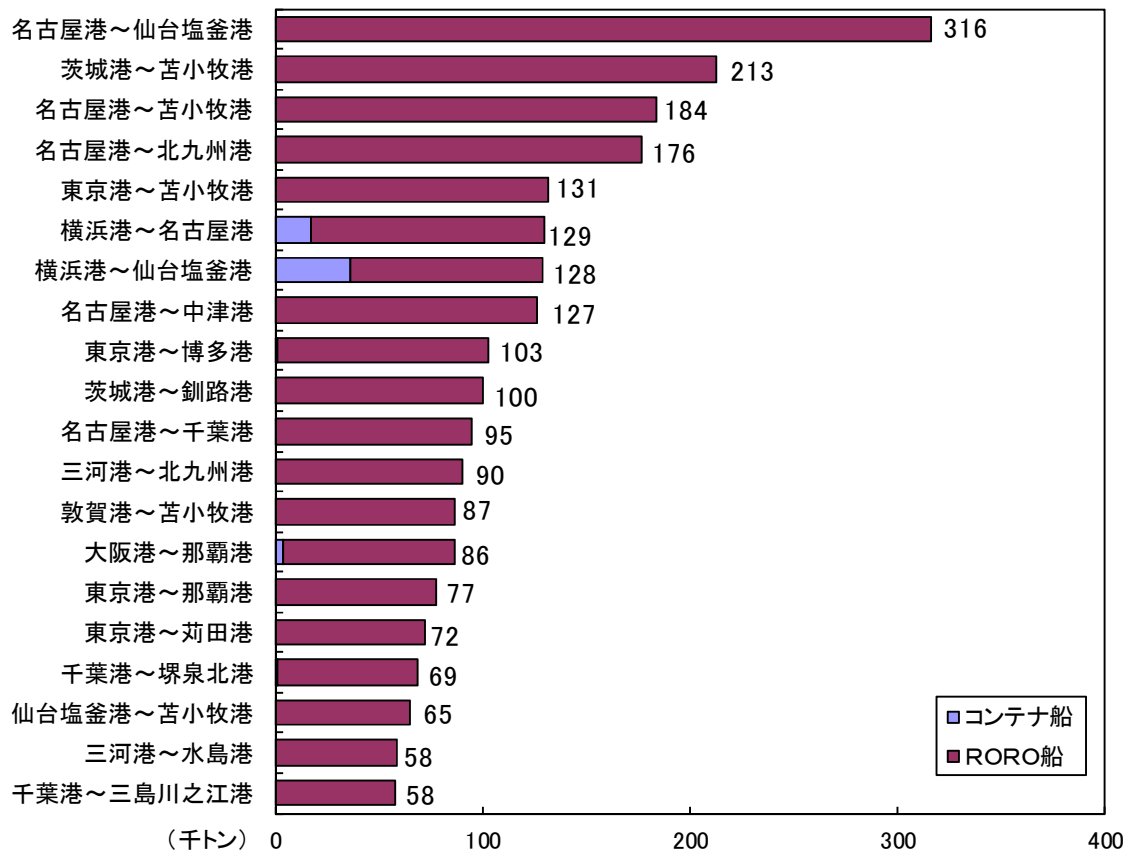


図-2 内航コンテナ船・RORO船貨物の船種別港湾別取扱量

3) 航路別輸送量

航路別輸送量をみると、名古屋港－仙台塩釜港が316千トで最も多く、次いで多いのは茨城港－苫小牧港であり、この上位2航路は200千ト以上の輸送量がある。このほか、名古屋港－苫小牧港、名古屋港－北九州港、東京港－苫小牧港、横浜港－名古屋港、横浜港－仙台塩釜港、名古屋港－中津港、東京港－博多港の各航路も、100千ト以上の輸送量がある。

船種別にみると、コンテナ船では横浜港－苫小牧港が最も多く、以下、東京港－仙台塩釜港、神戸港－博多港、横浜港－仙台塩釜港の順である。RORO船では、名古屋港－仙台塩釜港、茨城港－苫小牧港、名古屋港－苫小牧港、名古屋港－北九州港、東京港－苫小牧港の順に輸送量が多く、この上位5航路はコンテナ船とRORO船の合計輸送量と同じである。



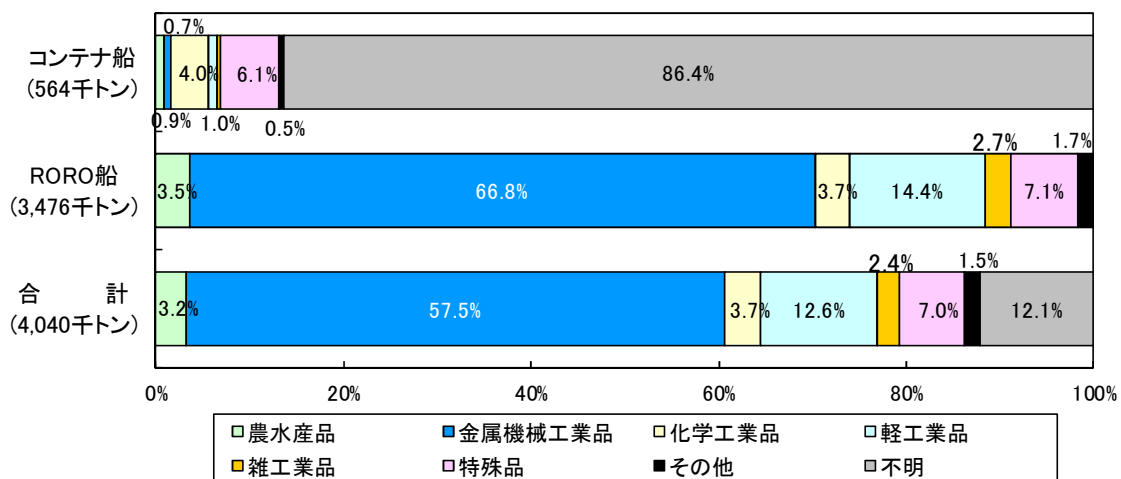
注)コンテナ船・RORO船合計輸送量の上位20航路

図－3 内航コンテナ船・RORO船貨物の航路別輸送量

4) 品目別輸送量

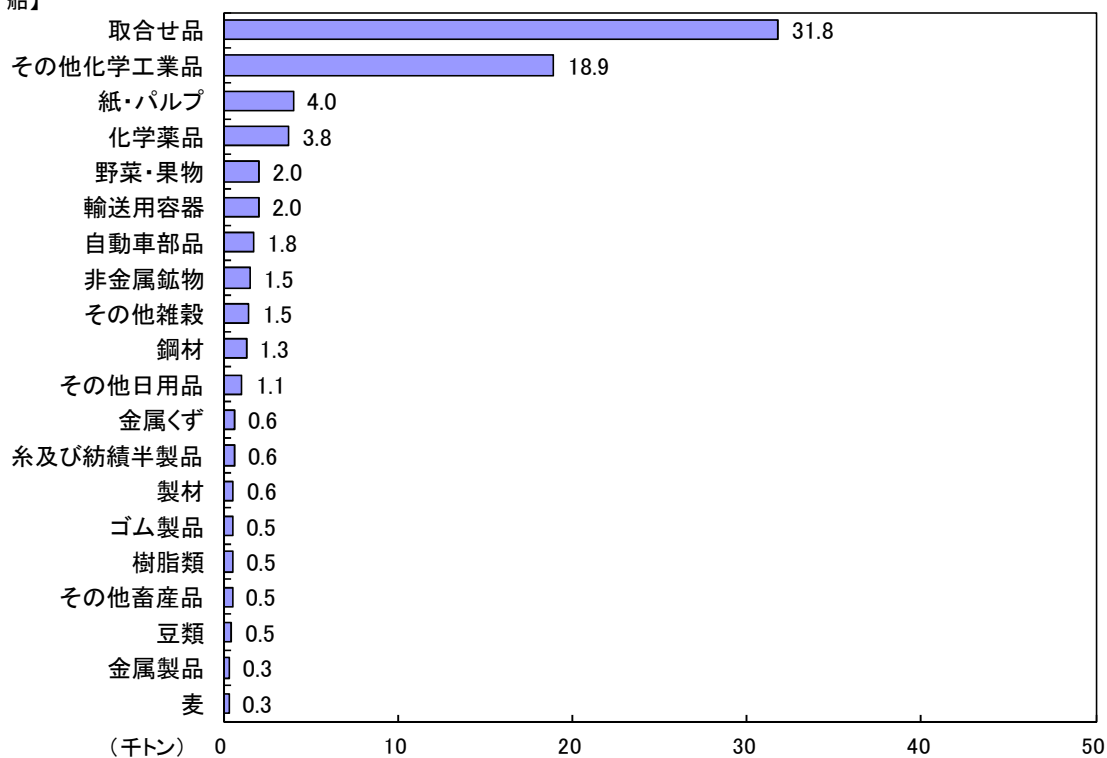
輸送貨物の品目構成を品類別で見ると、コンテナ船輸送貨物では86.4%（488千トン）が品目不明である。品類が明らかな貨物では、特殊品（35千トン：6.1%）、化学工業品（23千トン：4.0%）の順に貨物量が多くなっている。品目別では取合せ品、その他化学工業品などが上位を占めている。

RORO船貨物では、金属機械工業品が2,321千トンで全体の66.8%を占めている。以下、軽工業品（502千トン：14.4%）、特殊品（247千トン：7.1%）の順に輸送量が多く、これら3品類で全体の88.3%を占めている。品目別では、完成自動車が1,879千トンで全体の54.1%を占めており、このほか製造食品、中古自動車、紙・パルプなどが上位を占めている。

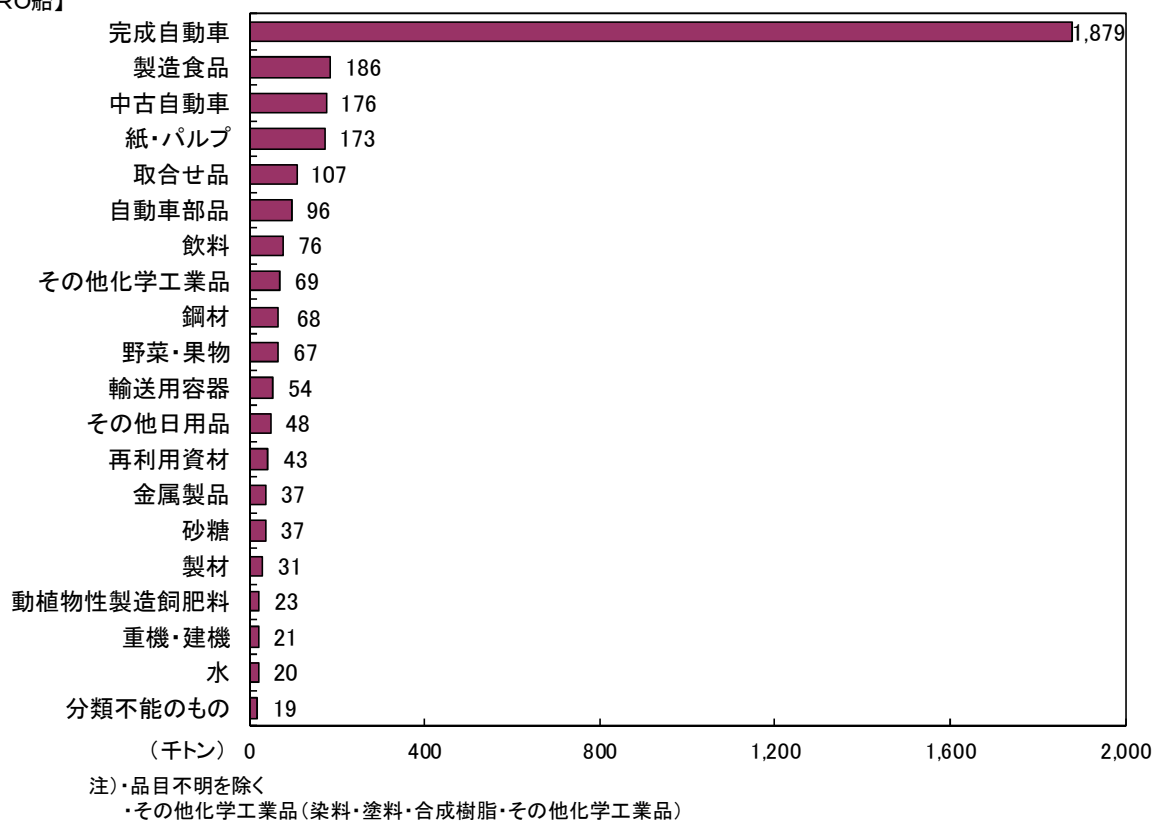


図－4 内航コンテナ船・RORO船貨物の船種別品類構成比

【コンテナ船】



【RORO船】



図－5 内航コンテナ船・RORO船貨物の品目別輸送量－上位20品目－

5) 地域間流動量

貨物の地域間流動量を船種別にみると、コンテナ船貨物では外国を発着地とするフィーダー貨物の比率が高く、全体の85.6%（輸出42.5%、輸入43.1%）を占める。国内流動貨物に限定すると、九州～沖縄、関東～中国、関東～中部、関東～北海道、中国～北陸の順に流動量が多くなっている。

RORO船貨物では、関東～北海道、中部～九州、中部～東北の流動量が30万トンを超えており、主に自動車産業の集積地域を発着地とする流動量が上位を占めるという特徴がうかがえる。このほか、関東～九州、関東～中部、中部～北海道で20万トン以上の流動量がある。

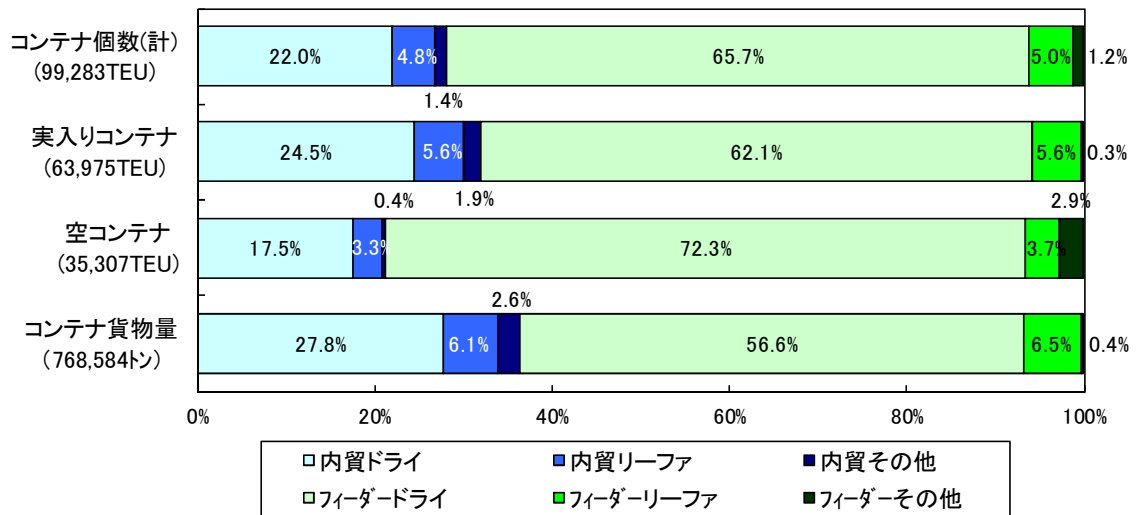
表－4 内航コンテナ船・RORO船貨物の地域間流動量

(単位:トン)

順位	地域間	コンテナ船		地域間	RORO船	
		輸送量	構成比		輸送量	構成比
1	九州～沖縄	25,179	4.5%	関東～北海道	475,988	13.7%
2	関東～中国	15,561	2.8%	中部～九州	475,808	13.7%
3	関東～中部	8,910	1.6%	中部～東北	373,439	10.7%
4	関東～北海道	5,813	1.0%	関東～九州	285,867	8.2%
5	中国～北陸	5,137	0.9%	関東～中部	276,599	8.0%
6	近畿～沖縄	4,929	0.9%	中部～北海道	220,968	6.4%
7	関東～近畿	4,421	0.8%	関東～近畿	169,343	4.9%
8	四国～沖縄	2,771	0.5%	関東～東北	136,143	3.9%
9	近畿～中国	2,636	0.5%	中部～中国	121,144	3.5%
10	近畿～九州	1,854	0.3%	東北～北海道	93,909	2.7%
11	関東～九州	1,174	0.2%	関東～中国	93,304	2.7%
12	中部～近畿	886	0.2%	近畿～沖縄	83,185	2.4%
13	中部～中国	851	0.2%	近畿～北海道	77,544	2.2%
14	関東～東北	694	0.1%	関東～沖縄	75,587	2.2%
15	中国～中国	434	0.1%	近畿～九州	73,578	2.1%
16	中国～東北	134	0.0%	関東～四国	57,034	1.6%
17				九州～沖縄	55,909	1.6%
18				中部～沖縄	43,225	1.2%
19				東北～九州	29,491	0.8%
20				関東～関東	26,626	0.8%
その他	内航フィーダー(輸出)	239,871	42.5%	内航フィーダー(輸出)	-	-
	内航フィーダー(輸入)	243,065	43.1%	内航フィーダー(輸入)	-	-
	その他地域間流動	-	-	その他地域間流動	199,379	5.7%
	発地又は着地不明	-	-	発地又は着地不明	31,547	0.9%
	合計	564,319	100.0%	合計	3,475,618	100.0%

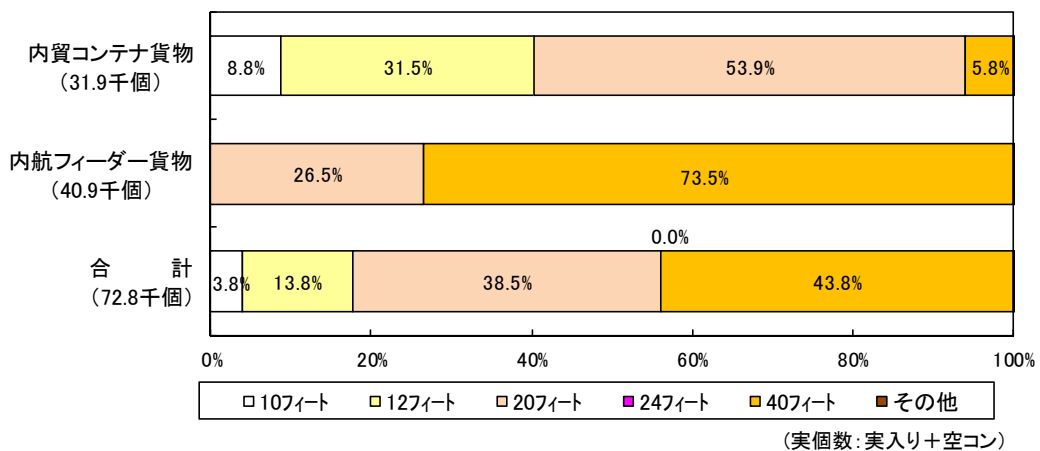
6) コンテナの種類と規格

内航コンテナ船、RORO船で輸送されるコンテナの種類をみると、コンテナの輸送個数 99,283TEU（空コンを含む）のうち、内貨貨物のドライコンテナが 22.0%を占めている。また、内航フィーダーのドライコンテナは 65.7%であり、この両方で 90%弱を占める。一方、リーファコンテナのコンテナ輸送個数に占める割合は、9.8%である。



図－6 コンテナ種類別コンテナ貨物量構成比

コンテナの規格（サイズ）をみると、内貨貨物（空コンを含む）では20フィートコンテナが最も多く全体の53.9%を占め、次いで12フィートコンテナ（31.5%）が多いのに対し、内航フィーダー貨物では、40フィートコンテナが最も多く全体の73.5%を占め、20フィートコンテナは26.5%である。



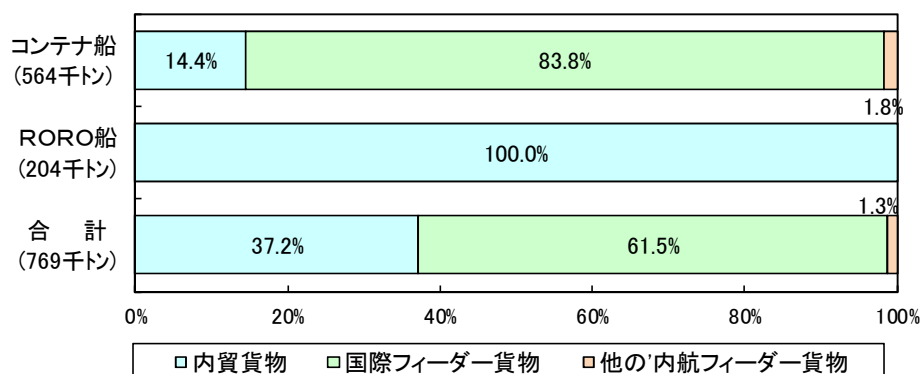
図－7 コンテナの規格別実個数割合

7) 国際フィーダーコンテナ輸送量

本調査では、貨物の発地あるいは着地が外国であるコンテナ貨物のうち、国際戦略港湾と国内各港を結ぶ内航フィーダー貨物を国際フィーダー貨物としている。

内航コンテナ船、RORO船で輸送されるコンテナ貨物のうち、国際フィーダー貨物の輸送量は473千トンで、コンテナ貨物輸送量全体の61.5%を占めており、コンテナ船輸送貨物に限定すると83.8%となる。

航路別にみると、国際フィーダー貨物の輸送量は東京港－仙台塩釜港、横浜港－苫小牧港、神戸港－博多港の順に多く、上位10航路で国際フィーダー貨物の輸送量全体の62.1%を占めている。



図－8 コンテナ貨物輸送における国際フィーダー輸送の割合

表－5 航路別にみた国際フィーダー輸送量（上位10航路）

(単位:トン)

順位	航路	合計	輸出	輸入
合計		472,862	230,932	241,930
1	東京港～仙台塩釜港	42,556	17,983	24,573
2	横浜港～苫小牧港	40,925	13,114	27,811
3	神戸港～博多港	40,874	11,427	29,447
4	横浜港～仙台塩釜港	36,369	17,262	19,107
5	神戸港～広島港	27,970	18,738	9,232
6	神戸港～北九州港	27,255	13,097	14,158
7	東京港～清水港	23,821	22,760	1,061
8	横浜港～神戸港	19,065	2,145	16,920
9	横浜港～清水港	17,991	8,476	9,515
10	横浜港～名古屋港	16,598	7,095	9,502
その他の航路		179,439	98,836	80,603

国際フィーダー貨物輸送量（トンベース）を中継港湾（国際戦略港湾）別にみると、輸出では神戸港（52.5%）、横浜港（23.6%）、東京港（22.0%）の3港で全体の98.1%を占めている。京浜港と阪神港別では、京浜港が45.6%、阪神港が54.4%となる。輸入も、神戸港（46.0%）、横浜港（37.8%）、東京港（15.5%）の3港でほぼ100%であり、京浜港と阪神港別では、京浜港が53.3%、阪神港が46.7%となる。

表－6 国際フィーダー貨物の中継港湾・フィーダー港湾別輸送量

中継港湾				
港湾名	TEU	構成比	トン数	構成比
東京港	3,078	13.8%	50,698	22.0%
横浜港	5,476	24.6%	54,603	23.6%
神戸港	13,464	60.5%	121,154	52.5%
大阪港	254	1.1%	4,476	1.9%
合計	22,271	100.0%	230,932	100.0%



フィーダー港湾				
港湾名	TEU	構成比	トン数	構成比
苫小牧港	998	4.5%	13,114	5.7%
八戸港	312	1.4%	4,249	1.8%
大船渡港	108	0.5%	2,160	0.9%
仙台塩釜港	2,832	12.7%	35,245	15.3%
鹿島港	79	0.4%	1,252	0.5%
茨城港	57	0.3%	596	0.3%
清水港	2,420	10.9%	31,236	13.5%
名古屋港	708	3.2%	7,095	3.1%
舞鶴港	29	0.1%	621	0.3%
神戸港	874	3.9%	8,625	3.7%
姫路港	152	0.7%	1,856	0.8%
境港	127	0.6%	1,572	0.7%
水島港	793	3.6%	10,446	4.5%
広島港	4,013	18.0%	19,088	8.3%
大竹港	351	1.6%	4,739	2.1%
徳山下松港	640	2.9%	11,690	5.1%
岩国港	73	0.3%	1,046	0.5%
三田尻中関港	1,766	7.9%	7,116	3.1%
宇部港	198	0.9%	3,189	1.4%
松山港	276	1.2%	2,751	1.2%
新居浜港	474	2.1%	8,209	3.6%
今治港	102	0.5%	1,269	0.5%
三島川之江港	761	3.4%	8,223	3.6%
北九州港	1,151	5.2%	13,097	5.7%
博多港	1,510	6.8%	12,612	5.5%
伊万里港	98	0.4%	1,294	0.6%
大分港	519	2.3%	8,356	3.6%
細島港	141	0.6%	2,240	1.0%
油津港	161	0.7%	1,972	0.9%
志布志港	315	1.4%	3,865	1.7%
その他港	234	1.1%	2,111	0.9%
合計	22,271	100.0%	230,932	100.0%

中継港湾				
港湾名	TEU	構成比	トン数	構成比
東京港	2,494	12.4%	37,567	15.5%
横浜港	7,075	35.3%	91,372	37.8%
大阪港	125	0.6%	1,672	0.7%
神戸港	10,349	51.6%	111,319	46.0%
合計	20,043	100.0%	241,930	100.0%



フィーダー港湾				
港湾名	TEU	構成比	トン数	構成比
仙台塩釜港	2,834	14.1%	43,680	18.1%
博多港	2,784	13.9%	32,638	13.5%
苫小牧港	2,381	11.9%	27,811	11.5%
神戸港	1,160	5.8%	16,643	6.9%
北九州港	1,094	5.5%	14,528	6.0%
志布志港	775	3.9%	12,220	5.1%
清水港	788	3.9%	10,575	4.4%
名古屋港	643	3.2%	9,639	4.0%
広島港	1,510	7.5%	9,610	4.0%
茨城港	696	3.5%	8,917	3.7%
水島港	712	3.6%	8,068	3.3%
姫路港	584	2.9%	7,112	2.9%
八戸港	527	2.6%	5,714	2.4%
徳山下松港	267	1.3%	3,538	1.5%
三島川之江港	305	1.5%	3,254	1.3%
高松港	344	1.7%	3,037	1.3%
大分港	230	1.1%	2,997	1.2%
三田尻中関港	418	2.1%	2,758	1.1%
徳島小松島港	141	0.7%	2,355	1.0%
福山港	197	1.0%	1,984	0.8%
松山港	187	0.9%	1,815	0.8%
新居浜港	122	0.6%	1,666	0.7%
今治港	118	0.6%	1,339	0.6%
大阪港	161	0.8%	1,081	0.4%
大船渡港	48	0.2%	960	0.4%
境港	136	0.7%	816	0.3%
宇部港	41	0.2%	803	0.3%
細島港	40	0.2%	720	0.3%
三河港	130	0.6%	700	0.3%
長崎港	120	0.6%	646	0.3%
その他港	549	2.7%	4,303	1.8%
合計	20,043	100.0%	241,930	100.0%

注) TEUは実入りコンテナのみ

(2) 内航自動車航送船（フェリー）の貨物流動実態

1) 航送台数，貨物輸送量

令和4年11月の1ヶ月間の内航自動車航送船（フェリー）による車両航送台数は186千台、貨物輸送量は2,036千トンである。うち、貨物車両における無人航送は、輸送台数で48.4%、輸送量で58.3%を占めている。

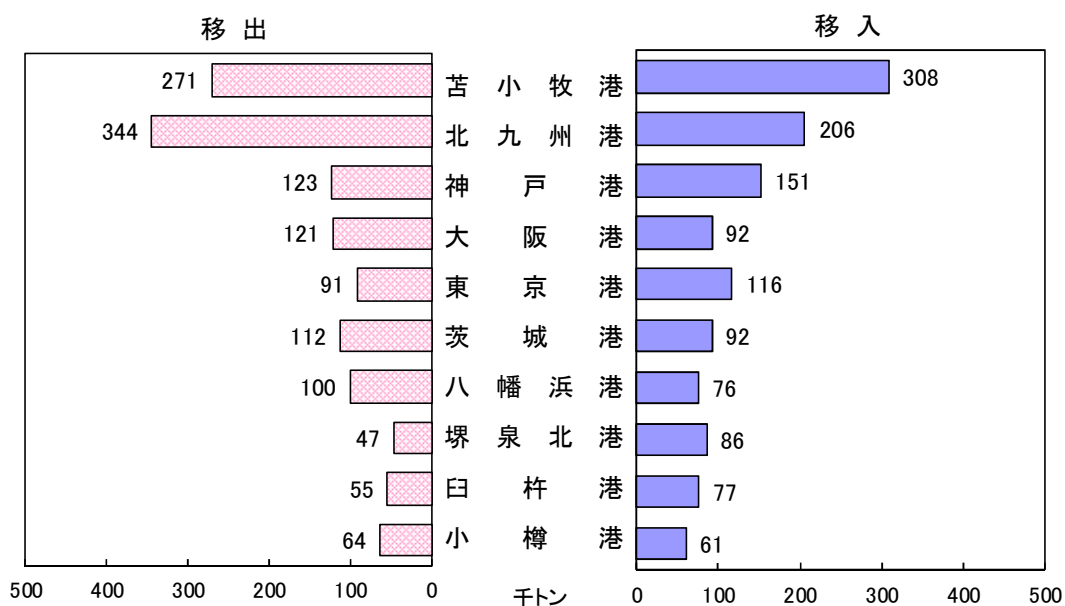
表－7 内航フェリーによる航送台数および貨物輸送量

	輸送台数						輸送トン数	
	実車		空車		合計		合計	
	台数	構成比	台数	構成比	台数	構成比	トン数	構成比
貨物車両	153,669	97.4%	28,493	100.0%	182,161	97.8%	1,987,166	97.6%
（うち無人航送）	70,959	46.2%	17,147	60.2%	88,107	48.4%	1,157,552	58.3%
商品車	3,952	2.5%	-	-	3,952	2.1%	26,975	1.3%
重機・建機	118	0.1%	-	-	118	0.1%	993	0.0%
車両合計	157,739	100.0%	28,493	100.0%	186,232	100.0%	2,015,134	99.0%
（うち無人航送）	74,446	47.2%	17,147	60.2%	91,593	49.2%	1,181,272	58.6%
コンテナ直積み							20,764	1.0%
貨物量合計							2,035,897	100.0%

注)うち無人航送の構成比欄は無人航送率である。

2) 港湾別輸送量

港湾別輸送量では、苫小牧港が579千トンで最も多く、輸送量全体に占めるシェアは14.2%である。以下、北九州港、神戸港、大阪港、東京港の順に多く、輸送量上位10港で全体の63.7%を占める。



注) 移出・移入の合計輸送量の上位10港

図－9 内航フェリー貨物の港湾別取扱量（上位10港）

3) 航路別輸送量

航路別貨物輸送量（往路・復路計）をみると、茨城港－苫小牧港が最も多く、輸送量全体の10.1%を占めている。以下、東京港－北九州港、堺泉北港－北九州港、八幡浜港－臼杵港、神戸港－北九州港の順であり、輸送量の上位10航路で全体の59.4%を占める。

表－8 内航フェリー－貨物の航路別輸送量

順位	航路	輸送量(往復計)		順位	航路	輸送量(往復計)	
		トン数	構成比			トン数	構成比
1	茨城港～苫小牧港	204,851	10.1%	16	八幡浜港～別府港	44,703	2.2%
2	東京港～北九州港	149,211	7.3%	17	新潟港～小樽港	44,492	2.2%
3	堺泉北港～北九州港	133,490	6.6%	18	神戸港～宮崎港	44,396	2.2%
4	八幡浜港～臼杵港	131,499	6.5%	19	大阪港～東予港	38,309	1.9%
5	神戸港～北九州港	120,662	5.9%	20	横須賀港～北九州港	38,216	1.9%
6	敦賀港～苫小牧港	113,030	5.6%	21	新潟港～苫小牧港	37,381	1.8%
7	八戸港～苫小牧港	97,257	4.8%	22	名古屋港～苫小牧港	29,187	1.4%
8	青森港～函館港	96,337	4.7%	23	和歌山下津港～徳島小松島港	28,118	1.4%
9	神戸港～大分港	83,431	4.1%	24	三崎港～佐賀関港	25,694	1.3%
10	大阪港～北九州港	80,505	4.0%	25	名古屋港～仙台塩釜港	21,260	1.0%
11	舞鶴港～小樽港	80,026	3.9%	26	徳島小松島港～北九州港	20,752	1.0%
12	仙台塩釜港～苫小牧港	76,758	3.8%	27	神戸港～高松港	20,709	1.0%
13	東京港～徳島小松島港	58,546	2.9%	28	秋田港～苫小牧港	20,235	1.0%
14	大阪港～志布志港	48,675	2.4%	29	長洲港～多比良港	18,322	0.9%
15	大阪港～別府港	45,826	2.3%	30	鹿児島港～那覇港	14,707	0.7%
その他の航路						69,317	3.4%
合 計						2,035,897	100.0%

4) 品目別輸送量

内航フェリー輸送貨物の品類をみると、軽工業品が最も多く 453 千トで全体の 22.2% を占める。次いで多いのは金属機械工業品（16.8%）であり、以下、特殊品（16.5%）、農水産品（15.2%）の順である。

品目別にみると、製造食品が 214 千トで最も多く、全体の 10.5% を占める。以下、取合せ品（7.5%）、その他日用品（6.6%）の順であり、輸送量上位 10 品目で全体の 57.4% を占めている。内航コンテナ船・RORO 船貨物と比較すると、輸送品目が多様化している（コンテナ船・RORO 船貨物は、上位 5 品目で 63.3%）。

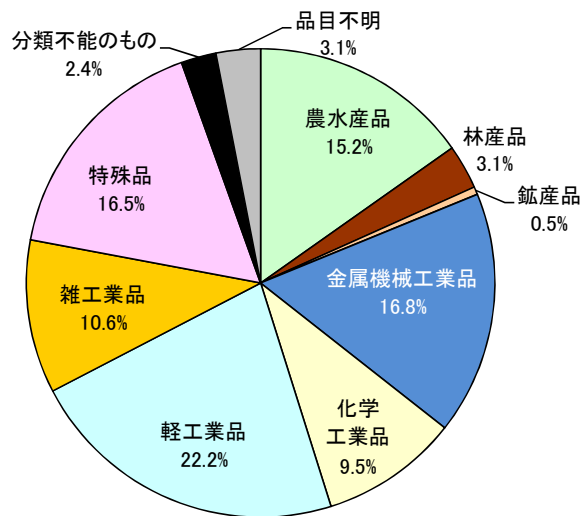


図-10 内航フェリー貨物の品類構成

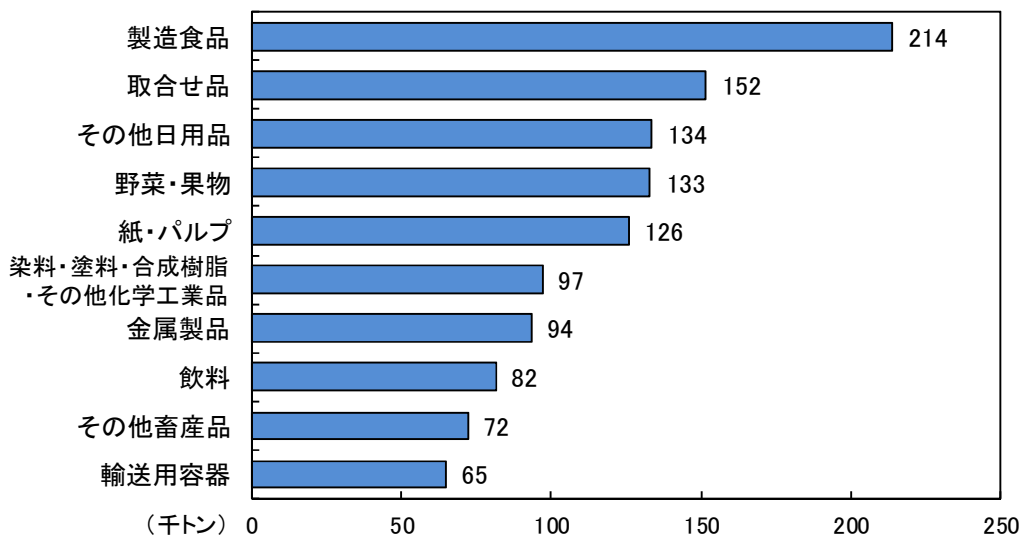


図-11 内航フェリー貨物の品目別輸送量（上位 10 品目）

5) 地域間流動量

内航フェリー輸送貨物の地域間流動量をみると、近畿～九州、関東～北海道、関東～九州では流動量が20万ト以上である。また、四国～九州、中部～九州、東北～北海道、近畿～北海道、中部～北海道においても流動量が10万ト以上となっており、北海道、九州と他の地域とを結ぶ流動が上位に位置している。

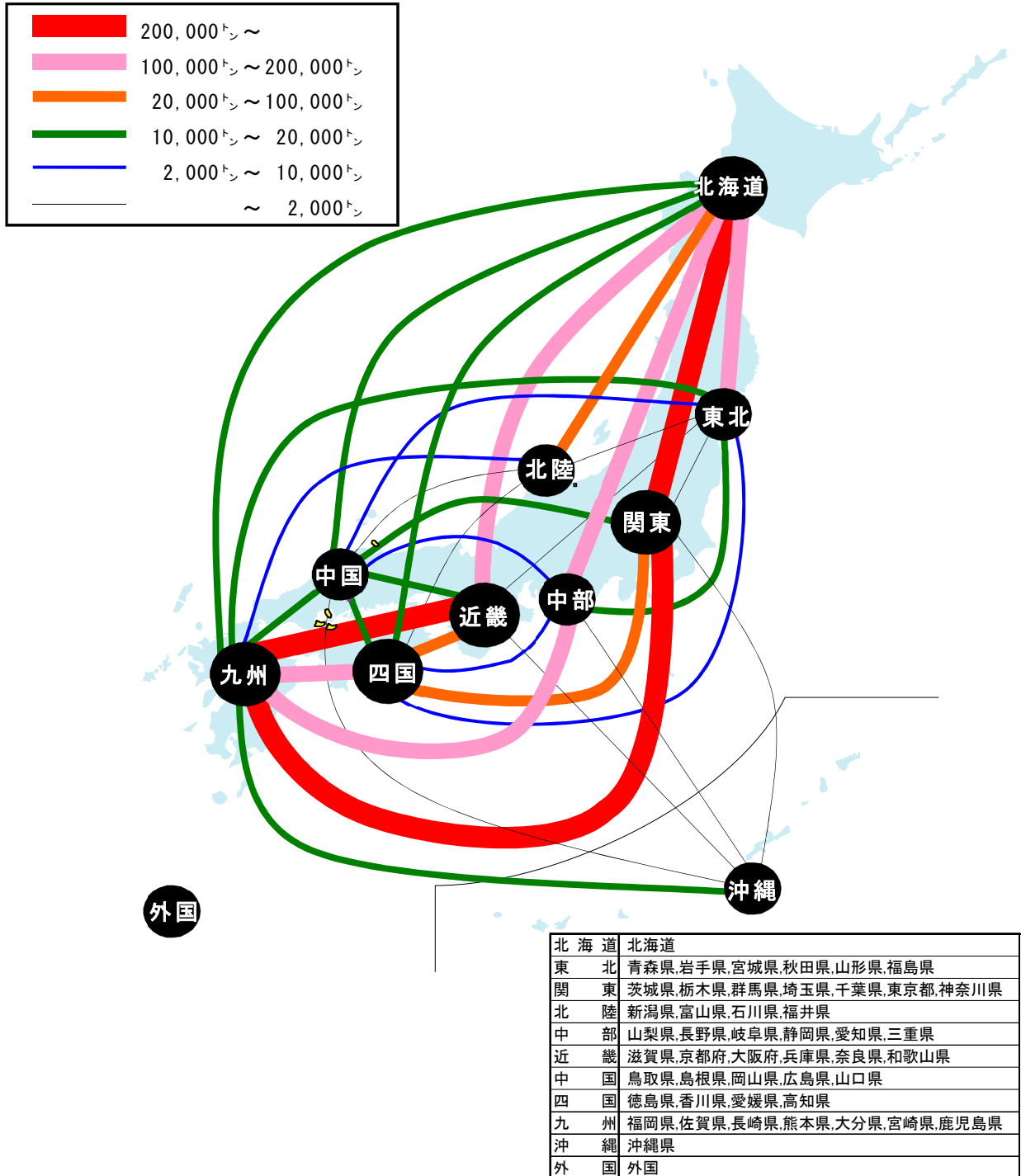


図-12 内航フェリー貨物の地域間流動量

(3) 外航RORO船・自動車航送船（フェリー）の貨物流動実態

1) 輸送トン数, コンテナ輸送個数

令和4年11月の1ヶ月間の外航RORO船、自動車航送船（フェリー）による貨物輸送量は199.8千トン（輸出：84.8千トン、輸入：115.0千トン）であり、うちフェリーによる輸送量が全体の76.7%を占める。

輸送機器別にみると、輸出ではコンテナ貨物が53.5千トン（RORO船19.4千トン、フェリー34.1千トン）で最も輸送量が多く、以下、貨物車両（トラック・トレーラ）（21.5千トン）、パレット貨物直積み（4.6千トン）、重機・建機（3.6千トン）の順である。輸入では、コンテナ貨物が97.3千トン（RORO船19.5千トン、フェリー77.8千トン）で全体の84.6%を占める。

外航RORO船とフェリーによるコンテナ輸送個数（TEUベース）は16.8千TEU（輸出：8.7千TEU、輸入：8.1千TEU）である。うち実入りコンテナは13.1千TEU（輸出5.1千TEU、輸入8.0千TEU）である。実入りコンテナについて船種別にみると、フェリー輸送が9.6千TEU（輸出：4.0千TEU、輸入5.6千TEU）で73.3%を占める。

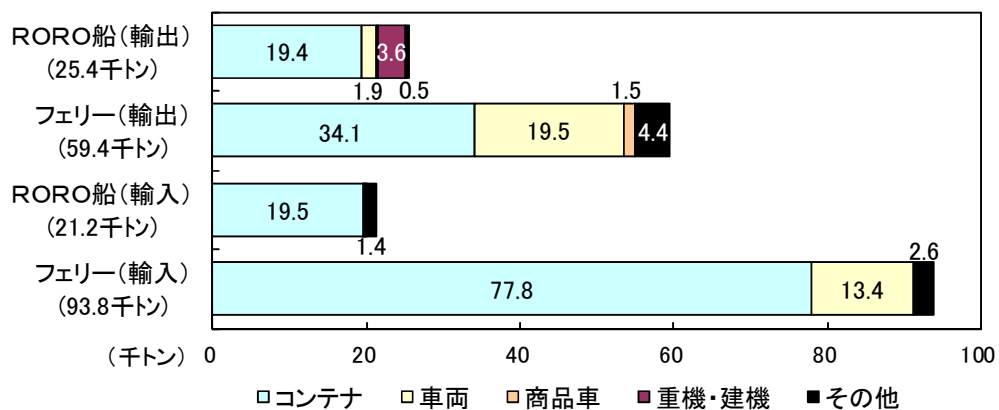


図-13 外航RORO船・自動車航送船貨物の船種別輸送機器別輸送量

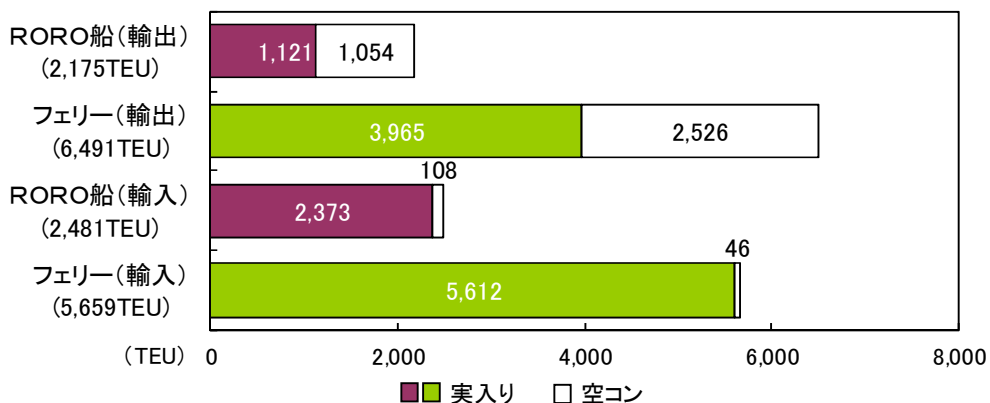


図-14 外航RORO船・自動車航送船における船種別実空別コンテナ輸送個数

表－9 外航RORO船・自動車航送船における貨物・コンテナ・車両の輸送量

(単位:トン)

輸送量		輸 出				輸 入				合 計				
		RORO船	フェリー	合 計	構成比	RORO船	フェリー	合 計	構成比	RORO船	フェリー	合 計	構成比	
月間輸送トン数	コンテナ	直積み	9,314	18,767	28,082	33.1%	14,987	46,407	61,394	53.4%	24,301	65,175	89,476	44.8%
		オンシャーシ	10,090	15,290	25,380	29.9%	4,509	31,431	35,940	31.3%	14,599	46,721	61,320	30.7%
		計	19,405	34,057	53,462	63.0%	19,496	77,839	97,335	84.6%	38,901	111,896	150,796	75.5%
	車両	トラック	21	1,882	1,903	2.2%	38	6,876	6,914	6.0%	58	8,758	8,817	4.4%
		トレーラ	1,929	17,628	19,556	23.1%	56	6,521	6,577	5.7%	1,984	24,149	26,133	13.1%
		計	1,949	19,510	21,459	25.3%	94	13,397	13,491	11.7%	2,043	32,907	34,950	17.5%
	その他	商品車	32	1,470	1,502	1.8%	156		156	0.1%	188	1,470	1,657	0.8%
		重機・建機	3,572		3,572	4.2%	25		25	0.0%	3,597		3,597	1.8%
		パレット貨物直積み	229	4,381	4,610	5.4%	1,422	2,562	3,984	3.5%	1,651	6,943	8,594	4.3%
		その他	232		232	0.3%					232		232	0.1%
	計	4,065	5,851	9,916	11.7%	1,602	2,562	4,164	3.6%	5,667	8,412	14,080	7.0%	
	合 計	25,419	59,418	84,837	100.0%	21,192	93,797	114,989	100.0%	46,611	153,215	199,826	100.0%	
	(船種構成)	30.0%	70.0%	100.0%	-	18.4%	81.6%	100.0%	-	23.3%	76.7%	100.0%	-	

(単位:個, TEU)

コンテナ個数		輸 出				輸 入				合 計				
		RORO船	フェリー	合 計	構成比	RORO船	フェリー	合 計	構成比	RORO船	フェリー	合 計	構成比	
TEU換算個数	直積み	実入り	786	2,283	3,069	35.4%	1,941	2,946	4,887	60.0%	2,728	5,228	7,956	47.3%
		空コン	905	1,090	1,995	23.0%	73	3	76	0.9%	978	1,093	2,071	12.3%
		計	1,692	3,372	5,064	58.4%	2,014	2,949	4,963	61.0%	3,706	6,321	10,027	59.7%
	オンシャーシ	実入り	335	1,683	2,017	23.3%	431	2,667	3,098	38.1%	766	4,349	5,115	30.4%
		空コン	148	1,436	1,584	18.3%	35	43	79	1.0%	184	1,479	1,663	9.9%
		計	483	3,118	3,601	41.6%	467	2,710	3,176	39.0%	949	5,828	6,778	40.3%
	合 計	実入り	1,121	3,965	5,086	58.7%	2,373	5,612	7,985	98.1%	3,494	9,578	13,071	77.8%
		空コン	1,054	2,526	3,579	41.3%	108	46	155	1.9%	1,162	2,572	3,734	22.2%
		計	2,175	6,491	8,665	100.0%	2,481	5,659	8,140	100.0%	4,655	12,150	16,805	100.0%
	(船種構成)	25.1%	74.9%	100.0%	-	30.5%	69.5%	100.0%	-	27.7%	72.3%	100.0%	-	

(単位:台)

車両台数		輸 出				輸 入				合 計				
		RORO船	フェリー	合 計	構成比	RORO船	フェリー	合 計	構成比	RORO船	フェリー	合 計	構成比	
輸送台数	トラック	実車	3	379	382	18.0%	3	1,046	1,049	43.2%	6	1,425	1,431	31.5%
		空車		15	15	0.7%		98	98	4.0%		113	113	2.5%
		計	3	394	397	18.7%	3	1,143	1,146	47.3%	6	1,537	1,544	33.9%
	トレーラ	実車	56	1,133	1,188	55.9%	5	660	665	27.4%	61	1,793	1,853	40.7%
		空車	51	68	119	5.6%	399	180	579	23.8%	450	248	697	15.3%
		計	107	1,200	1,307	61.5%	403	840	1,243	51.2%	511	2,040	2,551	56.0%
	車両計	実車	59	1,512	1,571	73.9%	8	1,706	1,714	70.6%	67	3,217	3,284	72.2%
		空車	51	83	134	6.3%	399	278	676	27.9%	450	360	810	17.8%
		計	110	1,594	1,705	80.2%	407	1,983	2,390	98.5%	517	3,577	4,094	90.0%
	商品車	4	105	109	5.1%	35		35	1.5%	40	105	145	3.2%	
	重機・建機	311		311	14.6%	1		1	0.0%	312		312	6.9%	
	合 計	425	1,699	2,125	100.0%	443	1,983	2,426	100.0%	868	3,682	4,551	100.0%	
	(船種構成)	20.0%	80.0%	100.0%	-	18.3%	81.7%	100.0%	-	19.1%	80.9%	100.0%	-	

2) 港湾別輸送量

港湾別輸送量をみると、最も多いのは下関港で71.8千トン（輸出：35.3千トン、輸入：36.5千トン）となっており、全体の35.9%（輸出41.6%、輸入31.8%）を占めている。次いで多いのは博多港の47.6千トン（輸出：18.8千トン、輸入：28.8千トン）であり、以下、大阪港、神戸港、東京港の順である。

輸送機器別にみると、輸出ではほとんどの港湾でコンテナ貨物の比率が高いが、最も輸送量が多い下関港では、車両貨物が51.0%を占め、コンテナ貨物は44.2%である。一方、輸入では、すべての港湾でコンテナ貨物の比率が高くなっている。

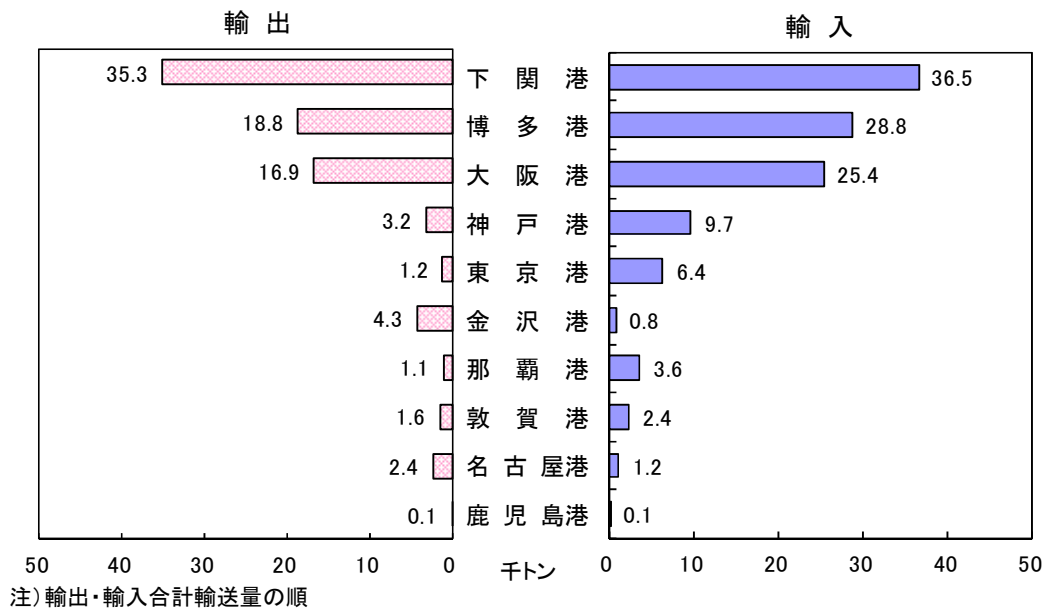


図-15 外航RORO船・自動車航送船における貨物・コンテナ・車両の輸送量

表-10 外航RORO船・自動車航送船貨物の港湾別輸送機器別取扱量

	輸出量(トン)					輸入量(トン)				
	コンテナ	車両	商品車	その他	合計	コンテナ	車両	商品車	その他	合計
東京港	836		11	336	1,183	5,318			1,080	6,397
金沢港	964		11	3,339	4,314	668			146	813
敦賀港	1,468			85	1,553	2,153			221	2,373
名古屋港	2,357		11	42	2,410	1,208				1,208
大阪港	12,472			4,381	16,853	22,863			2,562	25,425
神戸港	3,223				3,223	9,704				9,704
下関港	15,589	17,988	1,470	232	35,279	28,845	7,525	156		36,526
博多港	15,446	3,364			18,810	22,832	5,966			28,797
鹿児島港	132				132	99				99
那覇港	975	107			1,083	3,647				3,647
合計	53,462	21,459	1,502	8,414	84,837	97,335	13,491	156	4,008	114,989

3) 航路別取扱量

航路別にみると、輸出では下関港→釜山港、博多港→釜山港、大阪港→釜山港の順に輸送量が多い。輸入では、釜山港→下関港、釜山港→博多港、釜山港→大阪港の順に輸送量が多く、輸出入ともに韓国航路の貨物が上位に位置している。

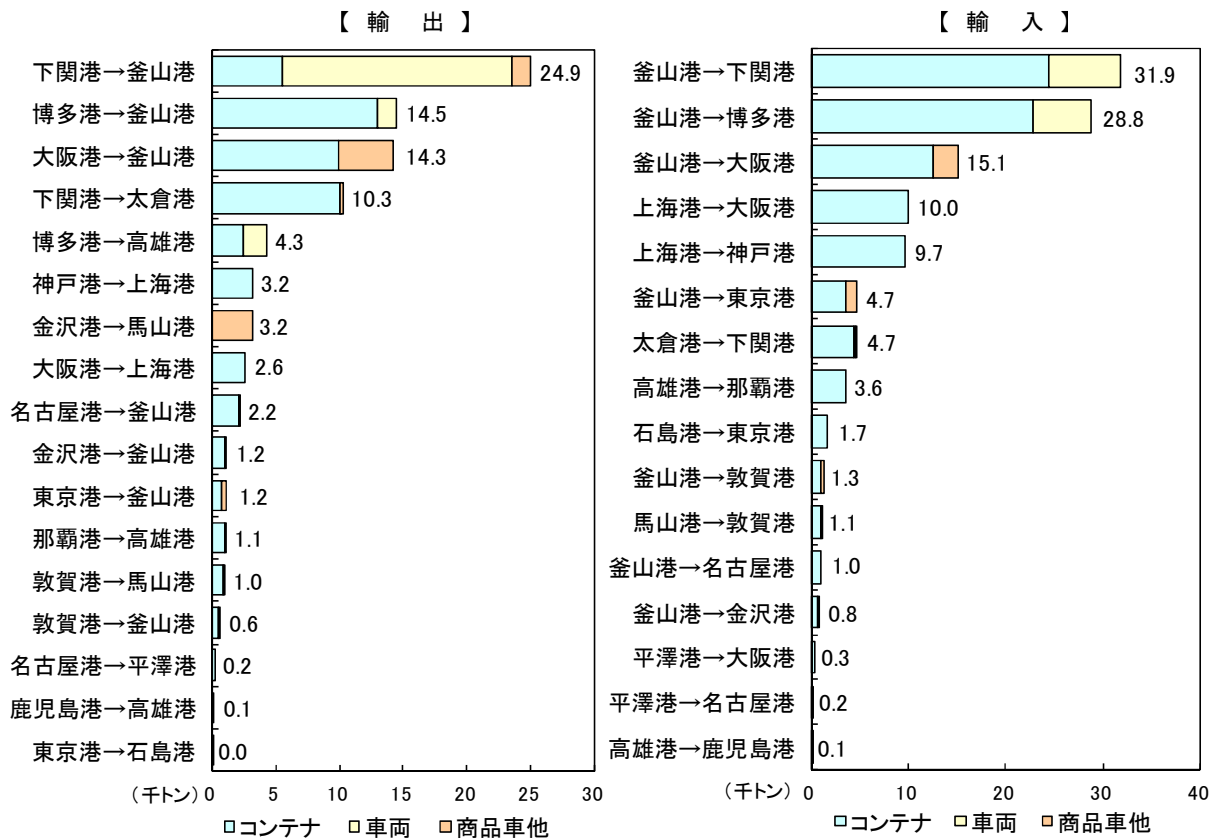


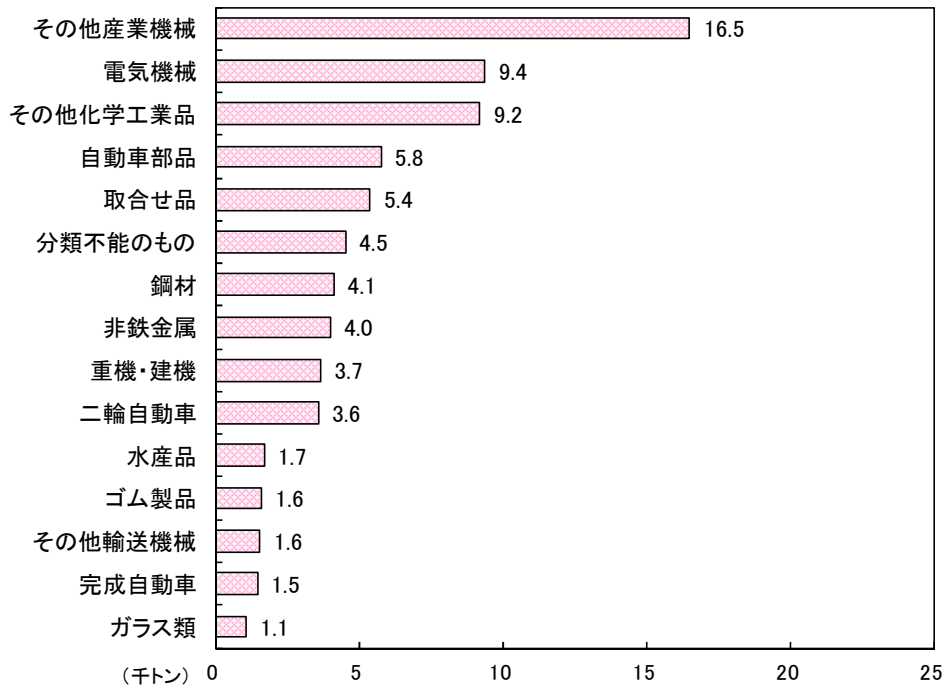
図-16 外航RORO船・自動車航送船貨物の航路別輸送量

4) 品目別輸送量

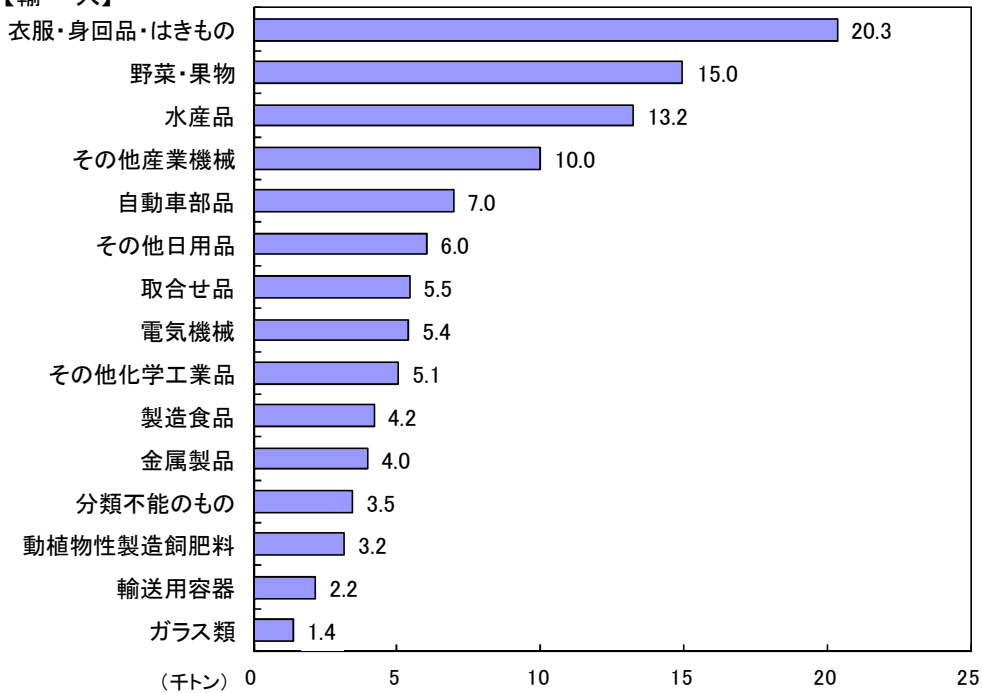
外航RORO船・自動車航送船貨物の輸送品目をみると、輸出ではその他産業機械（16.5千トン）、電気機械（9.4千トン）、その他化学工業品（9.2千トン）、自動車部品（5.8千トン）、取合せ品（5.4千トン）の順に輸送量が多く、この上位5品目で全体の54.6%を占めている。

輸入は、衣服・身廻品・はきもの(20.3千トン)、野菜・果物（15.0千トン）、水産品(13.2千トン)、その他産業機械（10.0千トン）、自動車部品（7.0千トン）の順に輸送量が多く、消費財が上位を占めている。

【輸 出】



【輸 入】



注)・品目分類不明を除く
 ・その他化学工業品(染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品)

図-17 外航RORO船・自動車航送船貨物の品目別輸出量・輸入量(上位15品目)

5) 都道府県別発生量・集中量

外航RORO船・自動車航送船貨物の発生量（輸出）を都道府県別にみると、最も多いのは山口県であり、全体の24.8%を占める。次いで多いのは福岡県（13.2%）であり、以下、山梨県（9.8%）、大阪府（9.4%）の順である。集中量（輸入）も、最も多いのは山口県であり、全体の19.2%を占める。以下、福岡県（12.0%）、大阪府（11.2%）、東京都（9.5%）の順に多く、輸出入ともに、外航RORO船・自動車航送船航路寄港港湾が所在する県のウェイトが高くなっている。

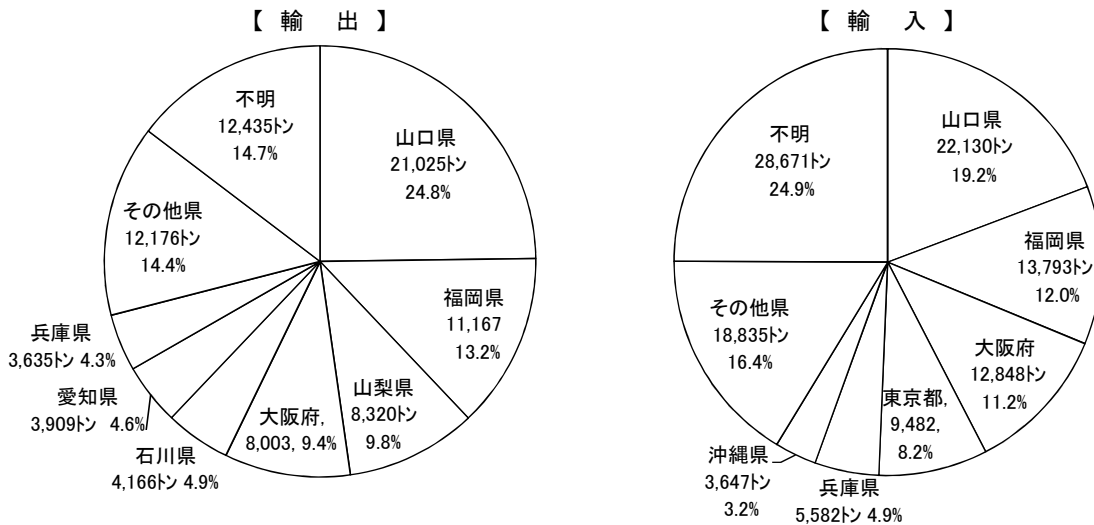


図-18 外航RORO船・自動車航送船貨物の発・着都道府県構成

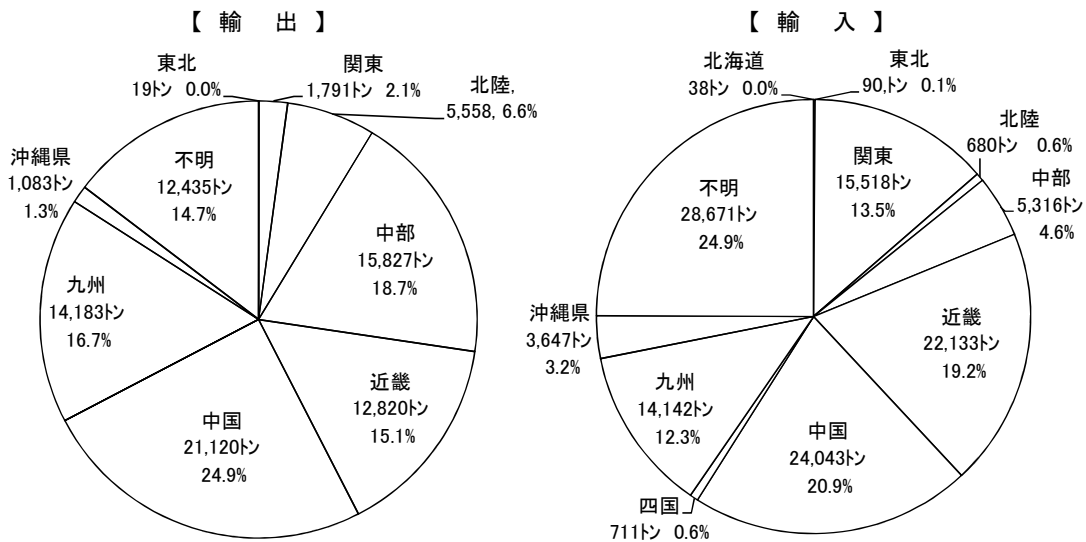


図-19 外航RORO船・自動車航送船貨物の発・着地域構成

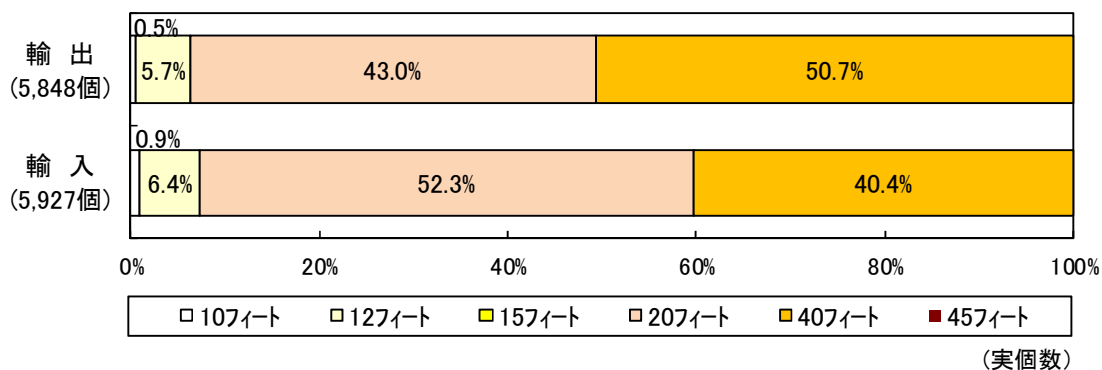
6) コンテナの種類と規格

外航RORO船・自動車航送船で輸送されるコンテナの種類をみると、コンテナの輸送個数 16,805TEU(空コンを含む)のうち、ドライコンテナが全体の 85.0%(輸出:83.4%、輸入:86.7%)である。

コンテナの規格(サイズ)をみると、輸出では 40 フィートコンテナが最も多く、全体の 50.7%(実入り 52.0%、空 49.0%)を占め、20 フィートコンテナは 43.0%である。輸入は 20 フィートコンテナが最も多く、全体の 52.3%(実入り 52.5%、空 40.6%)を占め、40 フィートコンテナは 40.4%である。

表-11 コンテナ種類別コンテナ個数・コンテナ貨物輸送量

		コンテナ個数						コンテナ輸送量	
		実入り		空コン		合計		トン	構成比
		TEU	構成比	TEU	構成比	TEU	構成比		
輸出	ドライコンテナ	4,174	82.1%	3,055	85.3%	7,229	83.4%	46,443	62.0%
	冷蔵・冷凍コンテナ	861	16.9%	518	14.5%	1,379	15.9%	6,643	8.9%
	その他	51	1.0%	6	0.2%	58	0.7%	376	0.5%
	計	5,086	100.0%	3,579	100.0%	8,665	100.0%	74,921	100.0%
輸入	ドライコンテナ	7,036	88.1%	21	13.4%	7,057	86.7%	83,722	75.5%
	冷蔵・冷凍コンテナ	869	10.9%	95	61.6%	965	11.9%	12,687	11.4%
	その他	79	1.0%	39	24.9%	118	1.4%	926	0.8%
	計	7,985	100.0%	155	100.0%	8,140	100.0%	110,825	100.0%
合計	ドライコンテナ	11,210	85.8%	3,075	82.4%	14,286	85.0%	130,165	70.1%
	冷蔵・冷凍コンテナ	1,730	13.2%	613	16.4%	2,344	13.9%	19,329	10.4%
	その他	131	1.0%	45	1.2%	176	1.0%	1,302	0.7%
	計	13,071	100.0%	3,734	100.0%	16,805	100.0%	185,746	100.0%



		10フィート	12フィート	20フィート	40フィート	45フィート	合計
輸出	実入り	1	224	1,410	1,771		3,406
	空	30	110	1,107	1,196		2,442
	計	31	334	2,517	2,966		5,848
輸入	実入り	52	372	3,058	2,339		5,821
	空		10	43	53		106
	計	52	382	3,100	2,392		5,927

図-20 コンテナの規格別実個数割合

(4) 過去の調査との比較分析

1) 内航コンテナ船・RORO船輸送における比較

令和4年調査における内航コンテナ船・RORO船での輸送量は4,040千トンであり、平成29年度調査(4,178千トン)と比較すると、輸送量は3.3%減少している。船種別にみると、コンテナ船輸送量は15.6%の減少、RORO船も1.0%の減少である。一方、令和4年度調査におけるRORO船のトラック・トレーラー輸送台数は8.1万台であり、平成29年度調査(7.2万台)と比較すると12.5%の増加、平成24年度調査(4.4万台)と比較すると85.1%の増加となっている。

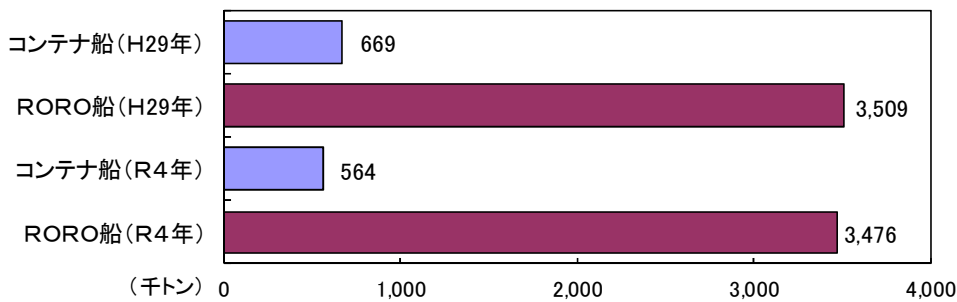


図-21 内航コンテナ船・RORO船輸送量の変化

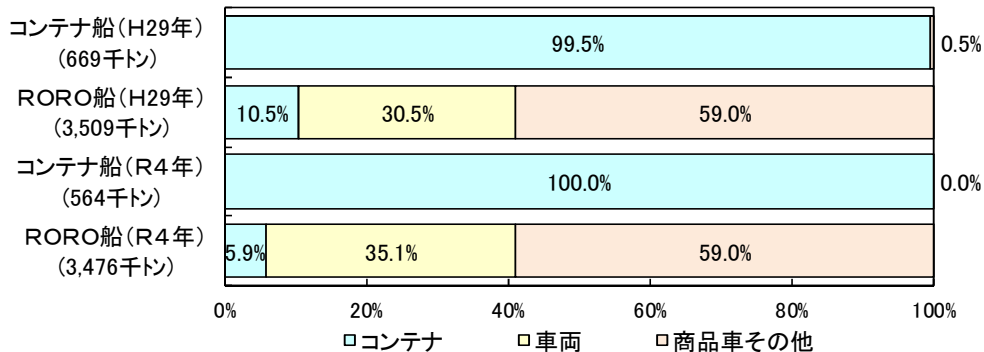


図-22 内航コンテナ船・RORO船貨物の輸送機器構成比の比較

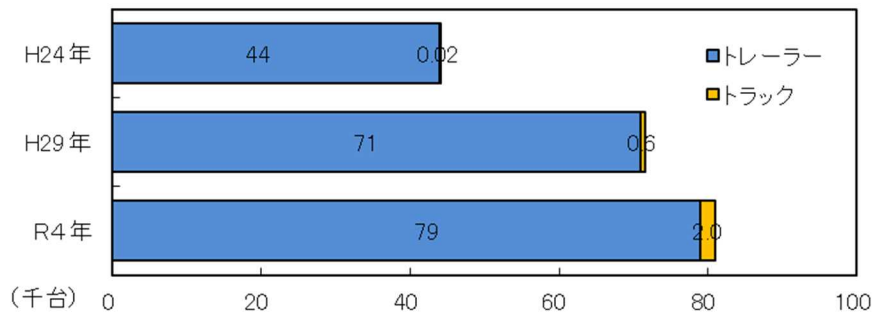


図-23 RORO船のトラック・トレーラー輸送台数

2) 内航フェリー輸送における比較

令和4年度調査での内航自動車航送船の輸送量は2,036千トンであり、平成29年度調査(2,225千トン)と比較すると、輸送量は8.5%減少している。また、貨物車両の輸送台数は18.2万台であり、平成29年度調査(20.8万台)と比較すると12.5%減少している。なお、輸送距離300km以上の長距離フェリーにおける貨物車両の輸送台数は11.7万台であり、平成29年度調査(12.4万台)と比較すると微減となっているが、平成24年度調査(11.5万台)より増加している。

また、無人航送率(貨物車両が対象)は48.4%であり、平成29年度調査(38.9%)に対し約10ポイント上昇している。主な長距離フェリー航路別にみると、地域間によらず上り・下りの無人航送率は同程度であり、北海道発着航路は8割程度以上で推移、近畿～九州航路は5割程度となっている。

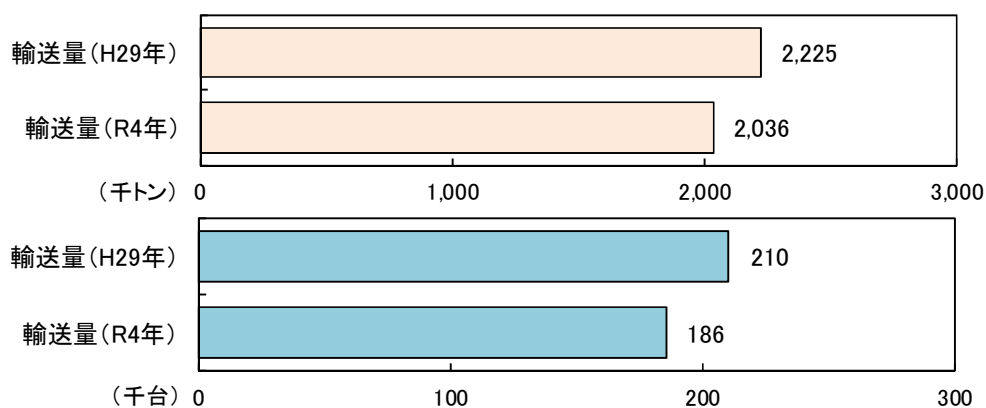


図-24 内航フェリー輸送量の変化

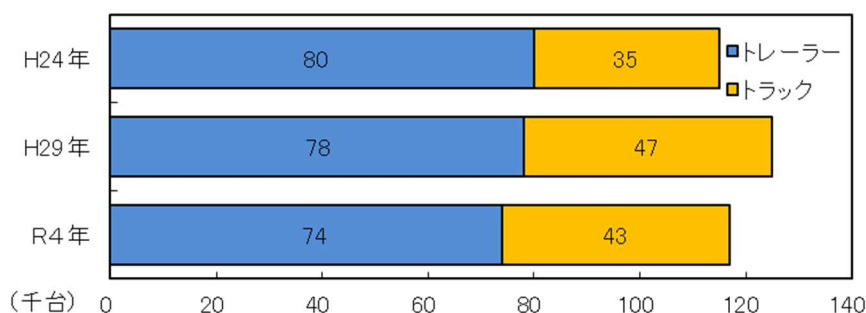


図-25 長距離フェリー輸送台数の変化

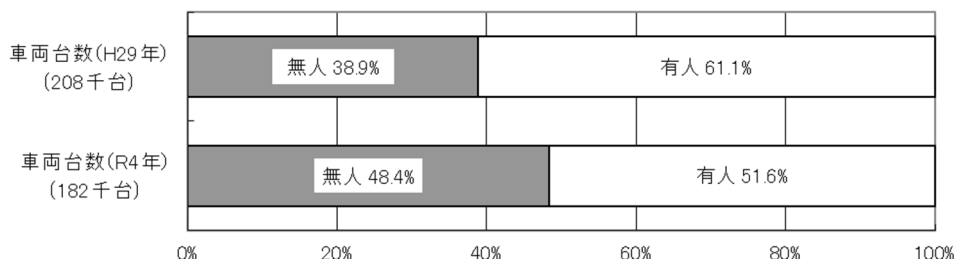


図-26 内航フェリーにおける無人航送率の変化

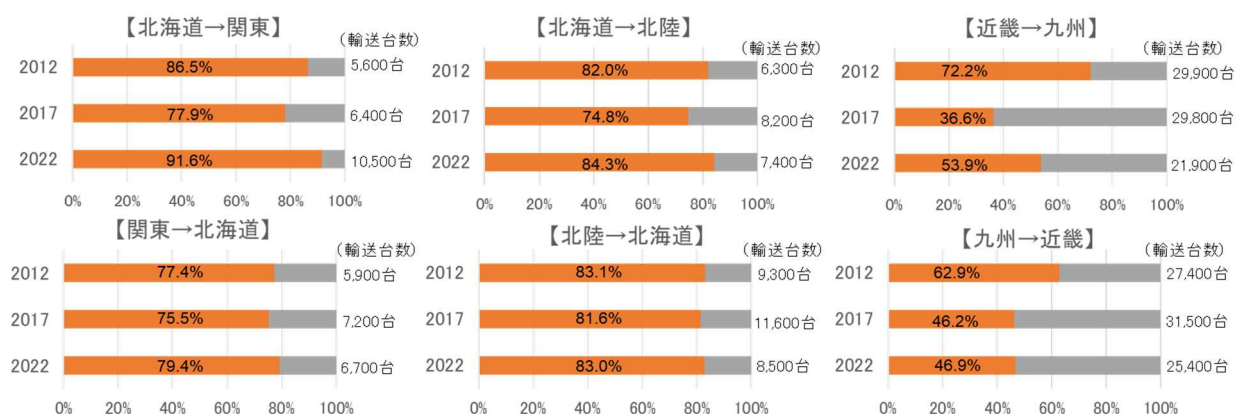


図-27 主な長距離フェリー航路における無人航送率

3) 国際フィーダー貨物輸送における比較

令和4年度調査における国際フィーダー貨物の輸送量は473千トン（輸出：231千トン、輸入：242千トン）であり、平成29年度調査に比べ11.1%輸送量が減少している。なお、国際フィーダー貨物は、すべてコンテナ船による輸送である。

コンテナ船輸送量に占める国際フィーダー貨物の比率は、国内貨物が33.4%の大幅減となったことから83.8%となり、平成29年度調査（79.5%）に比べ4.3ポイントの増加となった。

表-12 国際フィーダー貨物輸送の比較

(単位:トン)

		計	国内貨物	国際フィーダー貨物	国際フィーダー率
平成29年	コンテナ船	668,913	137,265	531,648	79.5%
	RORO船	3,509,336	3,509,336	0	0.0%
	計	4,178,249	3,646,602	531,648	12.7%
令和4年	コンテナ船	564,319	91,457	472,862	83.8%
	RORO船	3,475,618	3,475,618	0	0.0%
	計	4,039,937	3,567,075	472,862	11.7%
R4年 /H29年 (増減率)	コンテナ船	-15.6%	-33.4%	-11.1%	
	RORO船	-1.0%	-1.0%	-	
	計	-3.3%	-2.2%	-11.1%	

注) 国内貨物には国際フィーダー貨物以外のフィーダー貨物を含む。

4) 外航RORO船・自動車航送船輸送における比較

令和4年度調査において、外航RORO船・自動車航送船での輸送量は、輸出84.8千トン、輸入115.0千トンであり、平成29年度調査（輸出77.7千トン、輸入118.5千トン）に比べ、輸出は9.1%増加しているが、輸入は3.0%減少している。

船種別にみると、自動車航送船での輸送量は輸出が18.8%増、輸入が9.7%増といずれも増加している。一方、RORO船は輸出が8.3%減、輸入が35.7%減といずれも減少している。

輸送量の輸送機器構成をみると、輸出ではコンテナ貨物の比率が14.3ポイント増加する一方で、商品車他の比率が15.5ポイント低下している。また、輸入ではコンテナ貨物の比率が4.1ポイント増加し、車両の比率が4.2ポイント低下している。

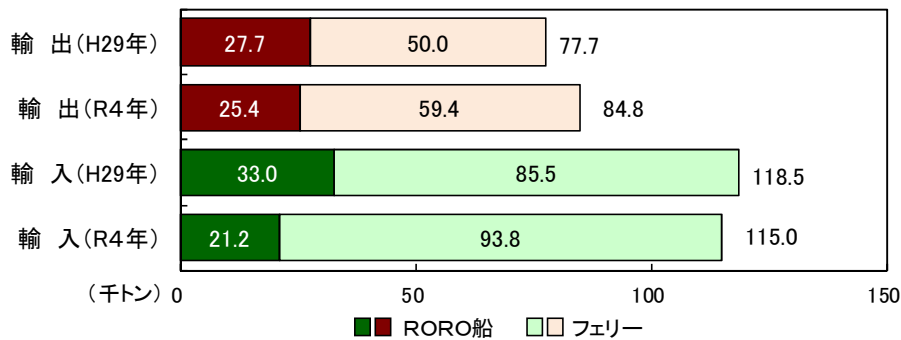


図-28 外航RORO船・自動車航送船輸送量の変化

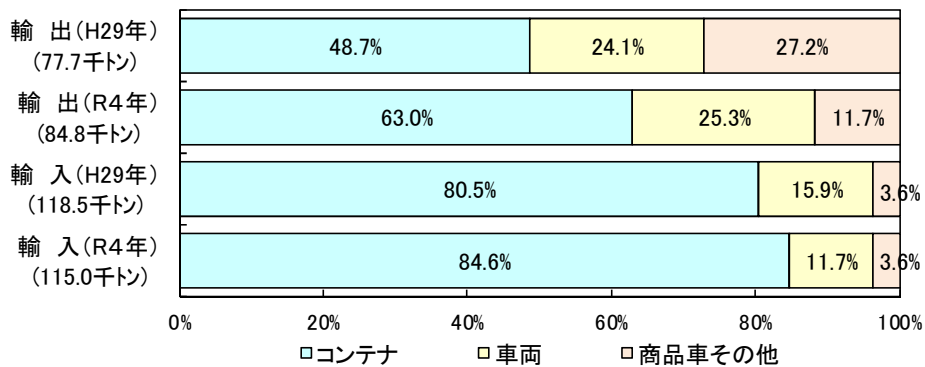



図-29 外航RORO船・自動車航送船貨物の輸送機器構成比の比較

(参考1) 調査票

■内航コンテナ船・RORO船貨物流動調査票



政府統計

内貿ユニットロード貨物流動調査
(内航コンテナ船・RORO船貨物流動調査票)

実施機関 国土交通省

ご記入にあたっては「記入要領」をご参照下さい
※この調査は目的以外には使用することはありません。

① 船名

船名	
----	--

② 第()出港分

③ 発着港名

発着港名	
------	--

④ 出港月日

出港月	日
月	日

⑤ 入港月日

入港月	日
月	日

⑥ 事業者名

事業者名	ご回答者氏名
ご回答者所属	連絡先電話番号

IV 貨物

① 輸送機器 ② 搬送機種の履歴	I トラック、トレー等の場合		II コンテナの場合		III 貨物の発着地		IV 貨物の着地		⑤ 荷受人業種 ⑥ 工場の業別 ⑦ 社名	⑧ 第1品目	⑨ 重量 (トーン)	⑩ 第2品目	⑪ 重量 (トーン)
	① トラック、トレーの種別	② 台数	③ コンテナの種別	④ コンテナの履歴	① 発着地	② 着地	① 発着地	② 着地					
01													
02													
03													
04													
05													
06													
07													

記入要領の該当番号をご記入下さい

1. 実
2. 空

最大積載トン数をご記入下さい

1. 港頭地区
2. 発着主の事業所内
3. その他

1. 陸揚工場である 2. 陸揚工場でない

別添品目表をご参照の上、品目名をご記入下さい

別添業種表をご参照の上、該当番号をご記入下さい

記入要領の該当番号をご記入下さい

(※印は記入しないで下さい)

■内航自動車航送船利用動向調査票



内貿ユニットロード貨物流動調査

内航自動車航送船利用動向調査票

※この調査は目的以外には使用することはありません



1. フェリー航路の概要について

フェリー運航会社名	フェリー利用区間		利用月日	利用便名	フェリーターミナル 到着時刻
	乗船港	下船港			
	港	港	月 日	第 便 (時 分発)	出港の 分前

2. あなたの車両について

①ナンバープレートの種別番号をご記入下さい。

種別番号	(例) 10	(例) 品川 10 さ 23-45
------	--------	----------------------

②車両の大きさについてご記入下さい。

最大積載量	車長
トン kg	m

(③～⑧は、該当する番号に○印をお付け下さい。)

③あなたの車両はトレーラータイプですか。	1. はい	2. いいえ
④あなたの車両にはコンテナを積んでいますか。 (2. いいえ に○印をお付けの場合、⑧へお進み下さい。)	1. はい	2. いいえ
⑤コンテナの種類は次のいずれですか。	[国際海上コンテナ] 1. ドライコンテナ 2. 冷蔵・冷凍コンテナ 3. その他 [その他のコンテナ] 4. ドライコンテナ 5. 冷蔵・冷凍コンテナ 6. その他 (注意: 輸出港およびその周辺施設へコンテナを輸送する場合、また、輸入港及びその周辺施設からコンテナを輸送する場合には、1～3の中からお選びください。それ以外の場合は、4～6の中からお選びください。)	
⑥コンテナの大きさは次のいずれですか。	1. 10フィート(5トン)	2. 12フィート(5トン)
	3. 15フィート	4. 20フィート
	5. 24フィート	6. 35フィート
	7. 40フィート	8. 45フィート
	9. その他	
⑦コンテナに貨物は入っていますか。	1. はい	2. いいえ
⑧あなたの車両は無人航送ですか。	1. はい	2. いいえ

裏面にもご回答ください。

3. 出発地及び目的地について(今回の乗船に際して)

出発地 このフェリーに乗船される前、どこを出発して来られましたか？	都道府県	市 郡	区 町 村	出発地の施設番号
	1. 工場 2. 営業用倉庫 3. 自家用倉庫 4. 卸売店舗 5. 小売店舗 6. 建設作業場 7. 卸売市場 8. サイロ 9. モータープール 10. 野積場 11. 上屋・荷さばき場 12. CY(コンテナヤード) 13. CFS(コンテナ・フレイト・ステーション) 14. その他			
目的地 このフェリーを降りてから行く主な目的地はどこですか？	都道府県	市 郡	区 町 村	目的地の施設番号
	1. 工場 2. 営業用倉庫 3. 自家用倉庫 4. 卸売店舗 5. 小売店舗 6. 建設作業場 7. 卸売市場 8. サイロ 9. モータープール 10. 野積場 11. 上屋・荷さばき場 12. CY(コンテナヤード) 13. CFS(コンテナ・フレイト・ステーション) 14. その他			


4. 積載品目について

○あなたの車両に積載している貨物の総重量(単位トン、小数点第1位)はどれくらいありますか。
 このうち、最も積載量の多い品目(積載物)は何ですか。

積載貨物の総重量	最も多い品目名	最も多い品目の重量
<input type="text"/> <input type="text"/> . <input type="text"/> トン		<input type="text"/> <input type="text"/> . <input type="text"/> トン

調査にご協力頂き大変ありがとうございました。

■ 外航RORO船・自動車航送船貨物流動調査票（輸出用）



政府統計
輸出用

外資ユニットロード貨物流動調査
(外航RORO船・自動車航送船貨物流動調査票)

実施機関 **国土交通省**

① 船名

ご記入にあたっては「記入要領」をご参照下さい

② 第()出港分

③ 発着港名 ④ 出港月日 ⑤ 入港月日

⑥ 着港名 ⑦ 入港月日

⑧ 事業所名 ⑨ ご回答者氏名

⑩ ご回答者所属 ⑪ 連絡先電話番号

⑫ 輸送機器の種類

⑬ 実空別

⑭ 搬入時刻

⑮ トラック、トレー等の場合

⑯ 台数

⑰ トラクタ等ク、トの種類

⑱ 貨物の発地

⑲ 工場の種類別

⑳ 荷送人業種

㉑ 輸送機器の種類

㉒ 輸送機器の種別

㉓ 発港入荷施設

㉔ コンテナの場合

㉕ コンテナの種類

㉖ コンテナの規格

㉗ 個数

㉘ パッキング場所

㉙ 第1品目

㉚ 重量 (7桁)

㉛ 第2品目

㉜ 重量 (7桁)

㉝ 他業者からの補充情報を入力させるための補助番号

㉞ 回着を補充する際に必要となるための補助番号

㉟ 別添品目表をご参照の上、品目名をご記入下さい

㊱ 別添業種表をご参照の上、該当番号をご記入下さい

㊲ 1. 臨海工場である
2. 臨海工場でない

㊳ 1. 港頭地区
2. 発着主の事業所内
3. その他

㊴ 1. 実
2. 空

㊵ 最大積載トン数をご記入下さい

㊶ 記入要領の該当番号をご記入下さい

㊷ 別添業種表をご参照の上、該当番号をご記入下さい

㊸ 別添品目表をご参照の上、品目名をご記入下さい

㊹ 別添業種表をご参照の上、該当番号をご記入下さい

㊺ 別添項目のうち、他業者(フォワーダー等)からの情報入手が
必要な場合には、情報入手先(フォワーダー名等)と、補充
情報を入力させるための補助番号(コンテナ番号、通関師の
申告番号等)をご記入下さい。

(※印は記入しないで下さい)

■ 外航 R O R O 船・自動車航送船貨物流動調査票（輸入用）



政府統計

輸入用

ご記入にあたっては「記入要領」をご参照下さい

外貿ユニットロード貨物流動調査
(外航 R O R O 船・自動車航送船貨物流動調査票)

実施機関 国土交通省

事業所名	ご回答者氏名
ご回答者所属	連絡先電話番号

② 第 () 出港分

③ 発 港 名	④ 出 港 月 日	⑤ 着 港 名	⑥ 入 港 月 日
	月 日		月 日

① 船 名

又は

II トラック、トレー等 の場合		III コンテナの 場合	
⑦ 搬出時刻	⑧ 台数	⑨ コンテナの種類	⑩ コンテナの規格
⑧ 要空別	⑨ トラクタ等ク、ト の種別	⑪ 所アバンニング機	⑫ 個数

記入要領の該当番号をご記入下さい

IV 貨物	⑬ 貨物の着地		⑭ 第1品目	⑮ 重量 (7ル=1t)	⑯ 第2品目	⑰ 重量 (7ル=1t)	⑱ 回答を補充する ために必要な 情報の入手先	⑲ 他業者からの 補充情報を リンクさせる ための補助 番号
	区 町 村	都 府 県						
01								
02								
03								
04								
05								

⑭ 業港出荷施設
⑮ 輸送機関施設
(船舶、航空機)
⑯ 荷受人業種
⑰ 工場の種別
⑱ 仕向施設

1. 港頭地区
2. 発着地の事業所内
3. その他

1. 臨時工場である
2. 臨時工場でない

別添業者表をご参照の上、該当番号をご記入下さい

別添品目表をご参照の上、
品目名をご記入下さい

調査項目のうち、他業者(フォワーダー等)からの情報入手が
必要な場合には、情報の入手先(フォワーダー名等)と、補充
情報をリンクさせるための補助番号(コンテナ番号、通関師の
申告番号等)をご記入下さい。

(※印は記入しないで下さい)

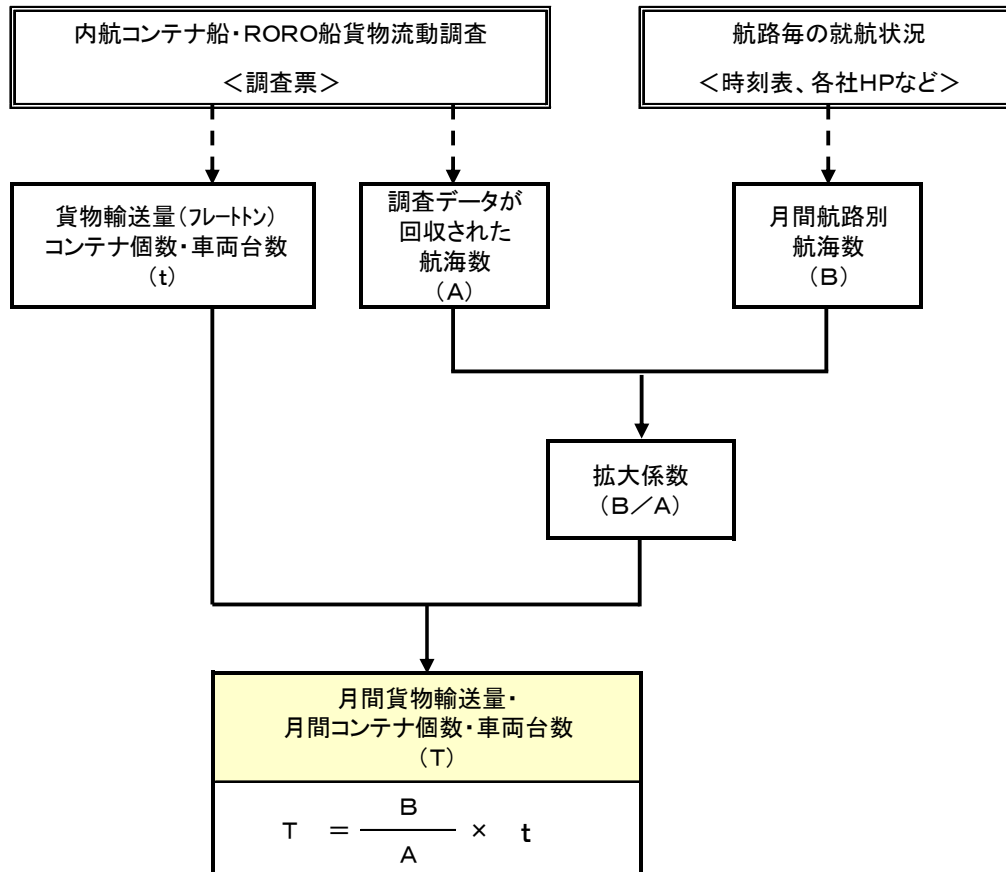
(参考2) 月間値の推計手法

各調査票の集計結果は、いずれも以下に示す方法により、月間貨物輸送量に拡大推計している。

(1) 内航コンテナ船・RORO船貨物流動調査

本調査では、指定した期間（令和4年年11月1ヶ月間）に運航した船舶の任意の4航海（4往復）の貨物輸送実績を把握しているが、航海頻度が航路によって異なるため、以下の方法により各航路とも調査で得られた貨物量、輸送したコンテナ個数および車両台数等を月間値に拡大推計し、調査結果の集計・分析はこの月間推計値により行った。

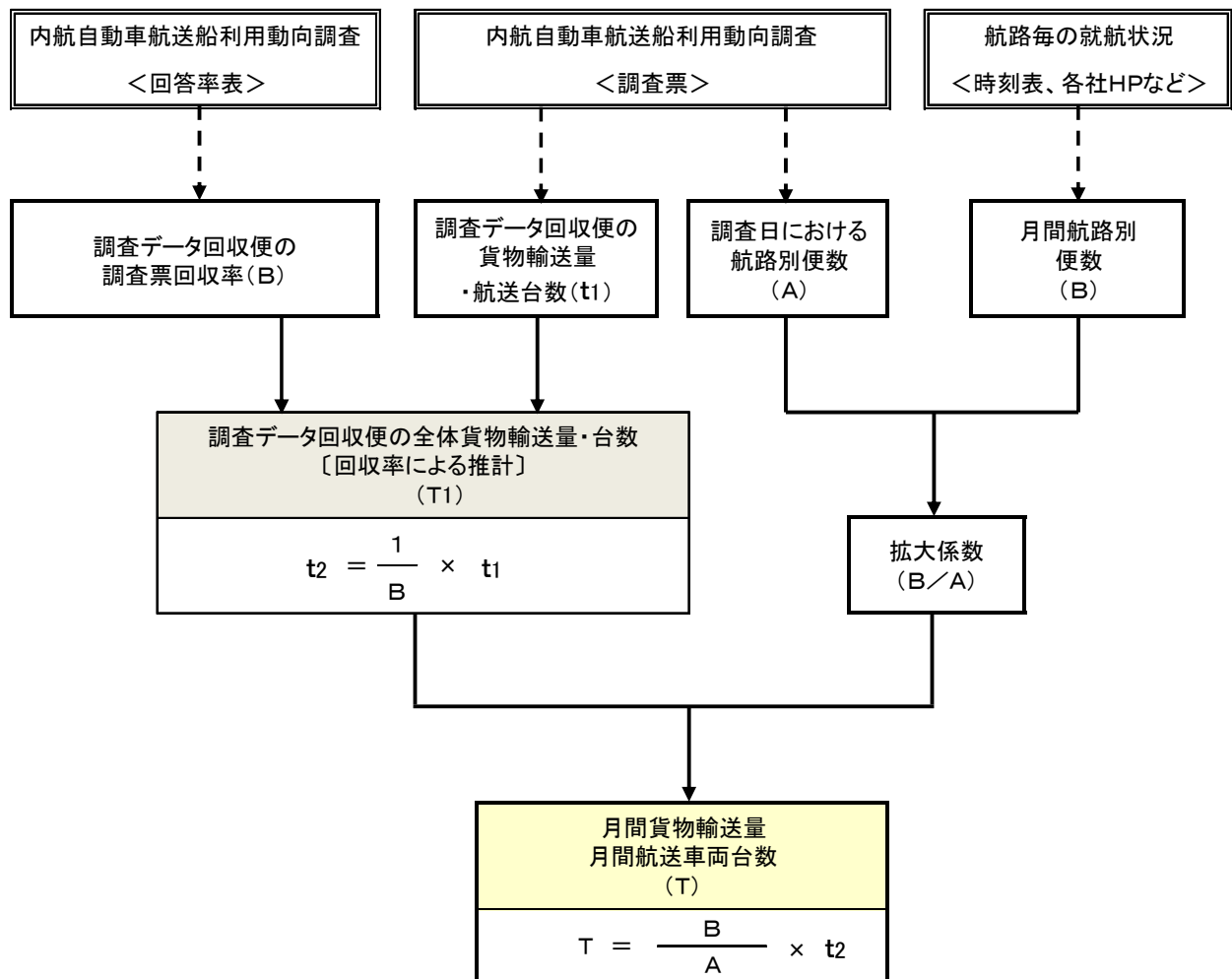
付図－1 内航コンテナ船・RORO船輸送貨物量の月間拡大推計フロー



(2) 内航自動車航送船利用動向調査

本調査では、指定した期間（令和4年11月1ヶ月間）に運航した自動車航送船（フェリー）航路について、航路毎に調査日（任意の2日間）を設定し、当該日に運航されたフェリーによる輸送貨物を調査対象としているが、航路（港湾間）によって1日の航海数に差があるため、調査結果の集計・分析においては、以下の方法により1ヶ月間の航送車両台数および貨物輸送量を推計している。

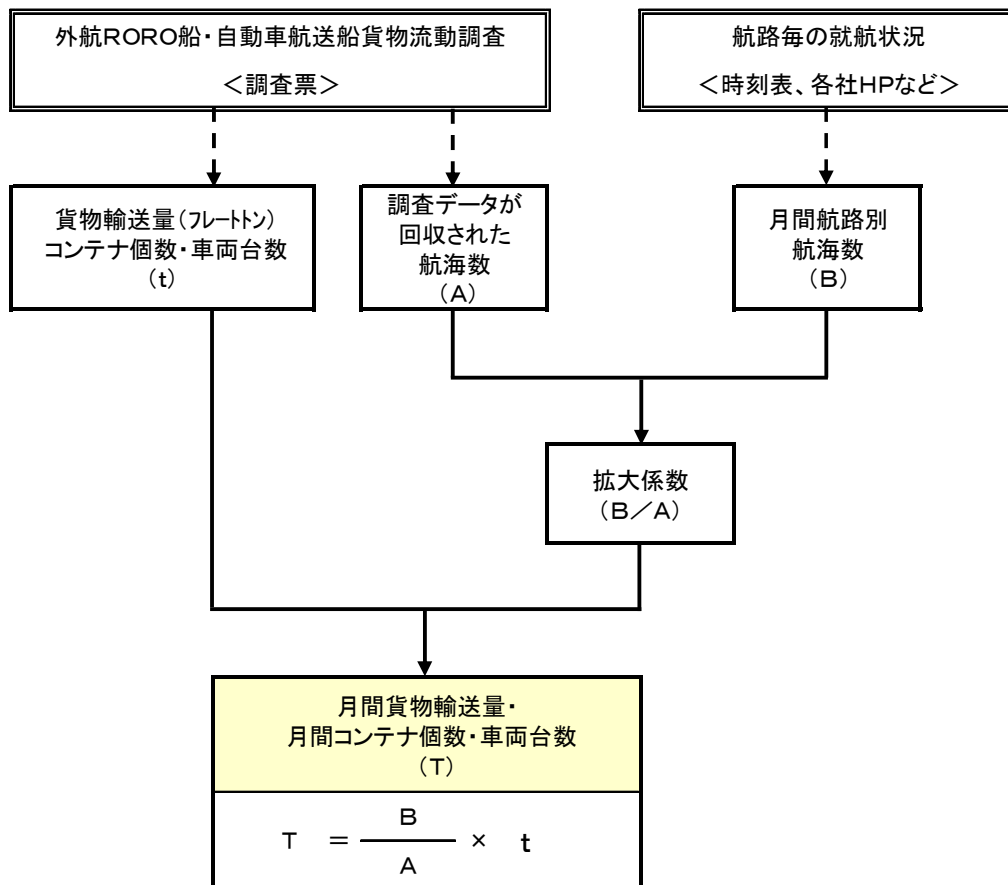
付図－2 内航自動車航送船（フェリー）輸送貨物量の月間拡大推計フロー



(3) 外航RORO船・自動車航送船貨物流動調査

本調査では、指定した期間（令和4年11月1ヶ月間）に運航した船舶の任意の4航海（4往復）の貨物輸送実績を把握しているが、航海頻度が航路によって異なるため、以下の方法により各航路とも調査で得られた輸送量、輸送したコンテナ個数および車両台数等を月間値に拡大推計し、調査結果の集計・分析はこの月間推計値により行った。

付図－3 外航RORO船・自動車航送船輸送貨物量の月間拡大推計フロー



(参考3) 品類・品目分類表

品類	品目名	コード	内容例	品類	品目名	コード	内容例
農 水 産 品	麦	101	大麦, 裸麦, 小麦, えん麦, らい麦, 精麦	化 学 工 業 品	陶磁器	501	磁子, タイル, セランミックブロック, 浴槽, 便器
	米	102	もみ, 玄米, 精米, 白米		セメント	502	各種セメント
	とうもろこし	103	とうもろこし		ガラス類	503	板ガラス, ガラス棒, ガラス管, 理化学用ガラス器具, ガラスビン, ガラス繊維
	豆類	104	大豆, 小豆, えんどう豆		窯業品	504	コンクリート製品, レンガ, 瓦, 石灰, 石膏製品, 耐火ボード, 石こう, 研磨材, セメント混和剤
	その他雑穀	105	あわ, ひえ, そば		重油	505	A重油, B重油, C重油
	野菜・果物	106	いも類, 大根, キヤベツ, きのこ, 山菜, わさび, 梅, 栗, みかん, リンゴ, 冷凍野菜, 冷凍果物		揮発油	506	ガソリン
	綿花	107	原綿, コットンリンター		石油製品	507	灯油, 軽油, ジェット燃料油, 潤滑油, ナフサ
	その他農産品	108	花き, 亜麻, てん菜, 茶, 葉たばこ, 種子, 芝草, むしろ, コーヒー豆, さとうきび, こうぞ, ハーブ		L N G	508	液化天然ガス
	羊毛	109	羊毛		L P G	509	液化プロパンガス, 液化ブタン
	その他畜産品	110	家畜, 牛肉, 豚肉, 鶏肉, 鶏卵, ペット用動物, はち蜜, 牛皮, 原毛皮, 蚕, 未加工乳		その他石油製品	510	絶縁油, グリース, ワセリン
水産品	111	魚介類(活魚, 生鮮, 冷凍, 塩蔵, 乾燥もの), 昆布, わかめ, のり, 鱈賞魚, 真珠, さんご	コークス	511	コークス, コーライト		
林 産 品	原木	201	製材用原木, ハルプ用原木, 足場丸太, 電柱用材	軽 工 業 品	紙・パルプ	601	製紙パルプ, 溶解パルプ, 洋紙, 板紙, 和紙, 新聞用紙, 建材原紙, カベ紙, 段ボール原紙
	製材	202	板, 角材, フローリング		糸及び紡績半製品	602	化学繊維糸, 綿糸, 燃糸, 紡績半製品(綿紡織・化学繊維紡織など), 麻糸, 毛糸, 絹紡糸
	樹脂類	203	天然ゴム, 生松やに, 生うるし, 天然樹脂		その他繊維工業品	603	ニット生地, 化学繊維織物, 綿織物, その他の織物, 繊維二次製品(レース, 製綿, 漁網など)
	木材チップ	204	木材チップ, 木くず		砂糖	604	粗糖, 上白糖, 糖みつ, 水あめ, 氷砂糖, 黒糖
	その他林産品	205	竹材, 苗木, 果樹, 樹皮		製造食品	605	牛乳, バター, アイスクリューム, 小麦粉, 香辛料, めん類, パン, 菓子, 製茶, 缶詰・ビン詰食品, 弁当, 寿司, 冷凍食品, レトルト食品
	薪炭	206	薪, 木炭, 黒炭, 加工炭, かいり灰, たどん		飲料料	606	ビール, 清酒, 洋酒, 清涼飲料水, 茶飲料
鉱 産 品	石炭	301	石炭, 亜炭, 無煙炭, せん石, 泥炭, 草炭	雑 工 業 品	水	607	飲料水, 氷, 雪
	鉄鉱石	302	鉄鉱石, 硫化鉄鉱, 磁鉄鉱		たばこ	608	紙巻きたばこ, 葉巻たばこ
	金属鉱	303	マンガン鉱, クロム鉱, 銅鉱, アルミニウム鉱		その他食料工業品	609	食塩, 化学調味料
	砂利・砂	304	川砂, 建設用岩石		がらん具	701	各種がらん具, 人形, むいぐるみ
	石材	305	庭石, 墓石		衣服・身回品・はきもの	702	下着, 外衣, 和服, スポーツウェア, 毛皮製品, 寝具(ふとん, 毛布, 枕など), 帽子, じゅうたん, カーペット, テーブルカバー, タオル, かばん, 靴
	原油	306	原油, 天然ガス(ガス状のもの)		文具具・運動 娯楽用品・楽器	703	筆記用具, 墨, 鉛筆削り, 製図器, 紙製品(ノート, アルバム等), 事務用接着剤, 運動競技用品, 絵画用品, 室内娯楽用品, パチンコ台, 楽器
	りん鉱石	307	グアノ, リン酸カリウム		家具・装備品	704	たんす, 棚, テーブル, ベッド, 電動ベッド, 金庫, 仏具神具, ロッカー, キヤビネット
	石灰石	308	石灰石		その他日用品	705	ほうき, バケツ, 家庭用調理器具・食卓用品, 紙おむつ, ライター, かつら, くし, ファスナー, ボタン
	原塩	309	岩塩, にがり		ゴム製品	706	ゴムタイヤ, チューブ, ゴムホース, ゴムベルト, 工業用ゴム製品, 医療用ゴム製品
	非金属鉱物	310	けい砂, 陶土, 耐火粘土, 石粉, ダイヤモンド, めのう, 硫黄, ほたる石, ポーケサイト		木製品	707	単板, 合板, 積層板, 新建材, 建具, ベニヤ板, マツチ軸木, 木毛, コルク製品, チップボード
金 属 機 械 工 業 品	鉄鋼	401	鉄鉄, 原鉄, 鉄製品, 粗鋼	特 殊 品	その他製造工業品	708	眼鏡, 農機具, 漁具, 救命防災用器具, 皮革製品
	鋼材	402	形鋼, 棒鋼, 鋼材, 帯鋼, 鋼管		金属くず	801	鉄くず, 鋼くず
	非鉄金属	403	銅, 鉛, アルミニウム, 銅・鉛などの棒・線材・板, 銅線, 電線ケーブル, 光ファイバーケーブル		再利用資材	802	古紙, 紡績ウエスト, プラスチックスクラップ
	金属製品	404	缶, 鉄骨, サッシ, 釘, ボルト, 刃物, 木工道具, ばね, 鋳物, 金属櫃, 鍵, 鉄柱, 橋梁		動植物性飼肥料	803	骨粉, 魚粉, 肉粉, 牧草, 配合飼料, まぐさ, たい肥, 酒かす, 大豆かす, むか, ふすま
	鉄道車両	405	機関車, 電車, 客車		廃棄物	804	じんかい, ふん尿
	完成自動車	406	乗用車, バス, 貨物自動車などの新車		廃土砂	805	建設工事にともなう廃土砂, 残土
	中古自動車	407	乗用車, バス, 貨物自動車の中古車		輸送用容器	806	コンテナ, ドラム缶, 石油缶, ボンベ, 段ボール箱, 木箱, 麻袋, ざる
	その他輸送車両	408	フォークリフト, ゴルフカート, 地上電源車		取り合せ品	807	引越荷物, 郵便物, 小荷物, 各種商品積合せ
	二輪自動車	409	オートバイ, モーター・スクーター, 二輪車用側車		分類不能のもの	901	
	自動車部品	410	エンジン・機関, 自動車車体, 自動車部品				
その他輸送機械	411	自転車, リヤカー, そり, 船舶, 航空機					
重機・建機	412	ショベルカー, ブルドーザ, クレーン車					
その他産業機械	413	ボイラ, タービン, 旋盤, 圧延機, 冷凍機, 業務用エアコン, 破砕機, 紡績機械, 農業用機械, 印刷機械, 半導体製造装置, パルプ類					
電気機械	414	発電機, 整流器, 変圧器, 照明器具, 家庭用電化製品, 家庭用エアコン, ラジオ, テレビ, ステレオ, DVDプレーヤー, パソコン, 液晶ディスプレイ					
測量・光学・医療用機器	415	計量器, 測定機, 時計, 顕微鏡, 望遠鏡, カメラ, 光学レンズ, 医療用機械					
事務用機器	416	電子卓上計算機, 複写機, ワープロ					
その他機械	417	自動販売機, 火災報知機, 温水暖房装置					